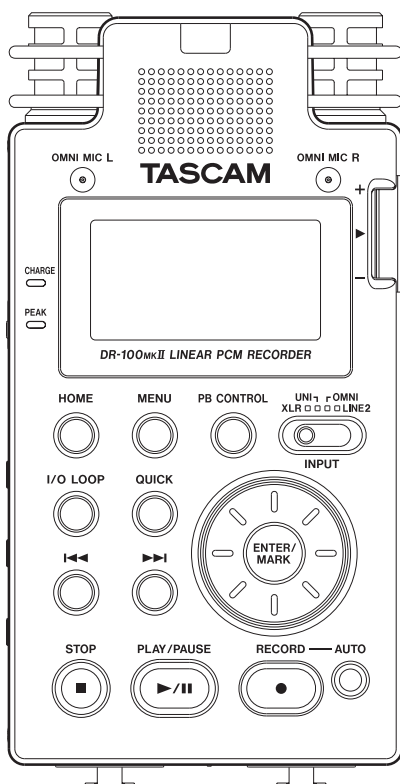
D01160501A

TASCAM

DR-100MKII

Linear PCM Recorder

取扱説明書

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。
禁止	**ACアダプターのコードを傷つけない** **ACアダプターのコードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、ACアダプターのコードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）をご依頼ください。
	別売の専用ACアダプターや電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	航空機の離着陸時には使用しない 航空機の運行の安全に支障を及ぼすおそれがあるため、離着陸時の使用は航空法令により制限されていますので、離着陸時は本機の電源をお切りください。
指示	**ACアダプターの電源プラグにほこりをためない** ACアダプターの電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。定期的（年１回くらい）にACアダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源をスタンバイにし、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のコードを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、別売の専用ACアダプターや電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	ACアダプターの電源プラグを抜くときは、ACアダプターの電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

充電式電池の取り扱いについて

本機は、充電式電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの恐れがあり、それを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告 充電式電池に関する警告

指示	**充電式電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない** 液漏れが発生したときは、ティアック修理センターにご相談ください。 液が目に入ったときには失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただち医師にご相談ください。 液が体や衣服に付いたときは皮膚の毛が・やけどの原因になるので、きれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。
禁止	**指定以外のACアダプターを使用しない** 充電式電池の液が漏れたときには、素手で液をさわらないでください。家庭用AC電源で使用するときは充電を行うときは、必ず指定のACアダプターを使用してください。 指定以外の物を使用すると過熱により、けが・やけど・火災・汚損や電池の破裂、液漏れの原因になります。
	火の中に入れたり、火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない
分解禁止	**分解しない** 感電の原因になります。充電式電池の交換・点検・修理は、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。ただし、廃棄時には取扱説明書の手順に従って内蔵の電池を取り外してリサイクルにご協力ください。

電池の取り扱いについて

本機は、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの恐れがあり、それを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告 乾電池に関する警告

禁止

乾電池は絶対に充電しない
破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

警告 電池に関する警告

強制

電池を入れるときは、極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しくいれる
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

長時間使用しないときは電池を取り出しておく
液がもれて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

禁止

指定以外の電池は使用しない
新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない
破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。

金属製の小物類に携帯、保管しない
ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。

加熱したり、火や水の中に入れない
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

分解禁止

分解しない
電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

注意

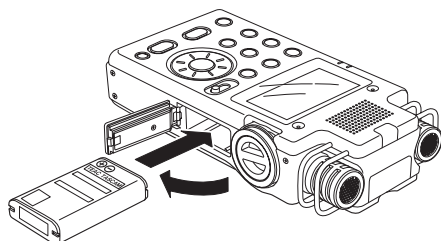
保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属のものと接触しないようにテープなどで端子を絶縁してください。

使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。

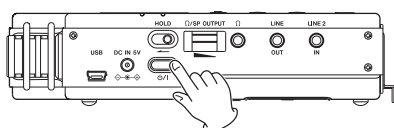
目次

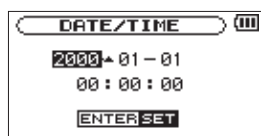
クイックスタートガイド

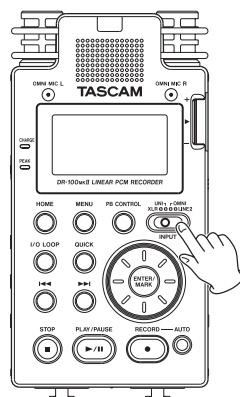
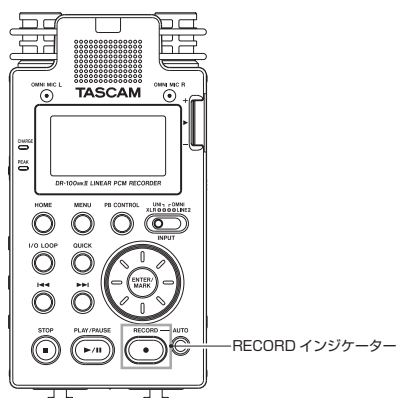
本機を使って、内蔵マイク（UNI MIC）を使った録音と再生をしてみましょう。
工場出荷時には、あらかじめSDカードが本体に挿入されており、録音形式はWAV形式44.1kHz、16ビットに設定されています。
録音形式を変更すると、より高音質で録音したり、より長時間の録音をすることができます。詳しくは、30ページ「ファイル形式／サンプリング周波数／最大ファイルサイズを設定する」をご参照ください。

1. 本機の側面にある電池ケースに、付属の専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2）を入れます。電池ケース内に合わせて電池をセットしてください。

注意

付属の専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2）は、お買い上げ時に十分に充電されていませんので、ご使用前にあらかじめ充電する必要があります。充電は、本機とパソコンをUSB接続して行います。（ → 22ページ「専用リチウムイオン充電池で使用する」）

2. 電源をオンにします。各種情報を表示します。
左サイドパネルの ⏻/❙ ボタンを、本機が起動されるまで押し続けます。本機が起動したらボタンを離します。

注意

お買い上げ後、最初に電源を入れたときには、本機で録音するファイルに日時を記録するための内蔵時計を設定する **“DATE/TIME”** 画面が表示されます。

⏮ボタンまたは⏭ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、ホイールを使って日付と時刻を合わせます。設定が完了したら、ENTER/MARKボタンを押して確定します。（ → 26ページ「日時を設定する」）

3. INPUTスイッチをUNIに設定します。

4. RECORD [●] ボタンを押すと、録音待機状態になります。このとき、RECORDインジケーターが点滅します。

5. 右サイドパネルのINPUTボリュームを使って、アナログ入力レベルを設定します。詳しくは、34ページ「アナログ入力レベルを調節する」を参照してください。

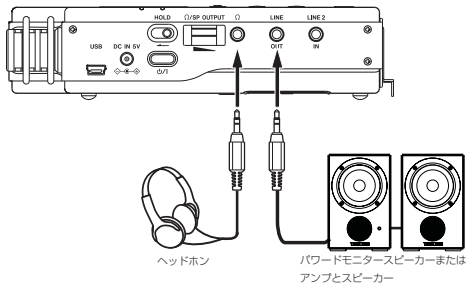
6. RECORD [●] ボタンを押すと、録音が始まります。録音中は、RECORDインジケーターが点灯します。

7. 録音を終了するには、STOP [■] ボタンを押します。

メモ

録音中に再度RECORD [●] ボタン、またはPLAY/PAUSE [►/❚❚] ボタンを押すことで録音を一時停止し、RECORD [●] ボタンまたはPLAY/PAUSE [►/❚❚] ボタンを押すと同じファイルに録音を再開することができます。

8. PLAY/PAUSE [►/II] ボタンを押すと、今録音したものが再生されます。

ヘッドホンで聴く場合や、外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、左サイドパネルにある 🎧 端子またはLINE OUT端子に機器を接続します。

本体内蔵のスピーカーで聴く場合は、スピーカー設定をオンにします。(→ 28ページ「内蔵スピーカーで再生する」)

メモ

ヘッドホンを接続するとSPEAKERスイッチがONでもスピーカーから音は出力されません。

9. 再生音量の調節は、左パネルの 🎧 /SP OUTPUTボリュームを使って行います。

10. 再生を停止するには、STOP [■] ボタンを押します。

メモ

録音を複数回行った場合は、ホーム画面で停止中または再生中に、I◄◄ボタンまたは►►Iボタンを使って再生するファイルを選択します。

11. 電源オン時に、左サイドパネルの ⏻/I ボタンを長押しし、**"LINEAR PCM RECORDER"** と表示されたら離します。シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。

第1章　はじめに

このたびは、TASCAM Linear PCM Recoder DR-100MKIIをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（**http://tascam.jp/**）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- 記録メディアにSD ／ SDHCカードを採用した高音質な音声記録のオーディオレコーダー
- 44.1k/48k/96kHz対応のHSモードを装備し、96kHzでの録音再生が可能
- 44.1k/48k/96kHz、16/24ビットのリニアPCM（WAV形式）録音が可能（HSモード時のみ96kHzに対応）
- 32k 〜 320kbpsのMP3形式での録音が可能（STDモード時、ID3 tag v2.4対応）
- 高品質ステレオ録音が可能な二つの指向性マイクと議事録などの録音に最適な二つの無指向性マイクの計四つの内蔵マイクを搭載
- ＋48Vファントム電源対応ロック付きXLRマイク端子を二つ搭載
- 0.4Wモノラル出力のスピーカー内蔵
- 2種類の異なる電池を併用することで長時間録音や録音中の電池交換が可能
- 音声のアナログ入力レベルを感知して、自動で録音の開始が行えるオートレック機能
- 特定の位置への移動に役立つマーク機能
- 任意の位置でファイルを分割するディバイド機能（WAVファイルのみ）
- 録音開始2秒前からの音を録音できるプリレック機能
- ファイル名の形式をユーザーワードまたは日付のどちらかに設定可能
- 素早くファイルを識別するためのQUICK TAG機能を装備
- **RECORD［●］**ボタンの操作音の録音を避けるためのレックディレイ機能
- 録音を継続したまま、あらかじめ設定した最大ファイルサイズやアナログ入力レベルによって、自動的にファイルを更新するオートトラックインクリメント機能
- 録音を継続したまま、任意の位置でファイルを更新できるトラックインクリメント機能
- 本体に三脚取り付け用穴を装備
- ワイヤード／ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-10、ワイヤードリモコンアダプターおよびワイヤードリモコンケーブル）付属
- USBケーブル、ソフトケースおよびウインドスクリーンを付属
- 3.5mm（1/8"）ライン出力／ヘッドホン出力端子
- 128 x 64のバックライト付ドットマトリックスタイプLCD
- Mini-B タイプUSB 2.0端子
- 専用外付けバッテリーパック（別売：TASCAM BP-6AA）からの供給が可能

本機の構成

本機の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- SDメモリーカード（本体差し込み済）　x1
- 専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2、取扱説明書を含む）　x1
- USBケーブル（80cm）　x1
- 専用ソフトケース　x1
- 専用ウインドスクリーン　x1
- ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-10）　x1
- リモコン用コイン形電池（リモコン本体に挿入済）　x1
- ワイヤードリモコンアダプター　x1
- ワイヤードリモコンケーブル　x1
- デジタル入力変換ケーブル　x1
- 取扱説明書（本書、本体およびBP-L2の保証書を含む）　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**MENU**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **"MENU"** のように "__" で括って表記します。
- 「SDメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレー上に表示される文字を《**DR-100MKII**》のように《__》で使って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

専用リチウムイオン充電池のリサイクル

本機には、リチウムイオン充電池を使用しています。不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
ご不明な場合は、弊社のタスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDHCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。

- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems（terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels）, streaming applications（via Internet, intranets and/or other networks）, other content distribution systems（pay-audio or audio-on-demand applications and the like）or on physical media（compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like）. An independent license for such use is required. For details, please visit http://mp3licensing.com.
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- Microsoft, Windows, Windows XP, Windows Vista, および Windows 7 は､米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、iMac、Mac OS および Mac OS X は、Apple Inc. の商標です。
- EVOLTAは、パナソニック株式会社の登録商標です。
- eneloopは、三洋電機株式会社の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは、各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。
弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SD カードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。
使用できるカードは、64MB ～ 2GBのSDカード、および4GB ～ 32GBのSDHCカードです。
TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などSDカードにアクセス中に抜き差しはしないこと。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏0度～40度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所や不安定な場所
  長時間直射日光が当たる場所
  暖房機器のそばなどの極端に温度が高い場所
  極端に温度の低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所
  直接雨などの水が当たる場所
- 本機の近くにパワーアンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

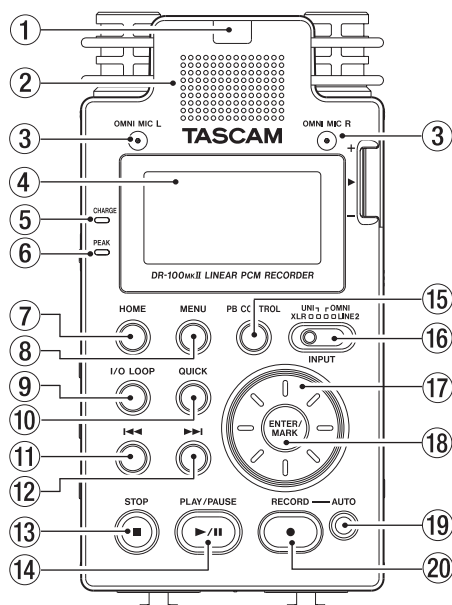
製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

ユーザー登録については、巻末をご参照ください。ユーザー登録について
ユーザー登録については、巻末をご参照ください。

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年（ BP-L2は、お買い上げより90日）です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
  ユーザー登録については、巻末をご参照ください。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  本機を使ったシステム内のハードディスク、MOディスクなどの記録内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。
  - 型名、型番（DR-100MKII）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 当社は、この製品の補修用性能部分（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

トップパネル

① リモコン受光部

付属の専用ワイヤレス／ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）の信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。（ → 24ページ「ワイヤレスリモコンで使う」）

② モノラルスピーカー

モニター用の内蔵スピーカーです。

以下の状態では、スピーカーから音は出力されません。

- 録音待機中
- ヘッドホン接続時
- 録音中
- スピーカー出力設定オフ時
- オーバーダビングモード時

③ 内蔵無指向性ステレオマイク（OMNI MIC L ／ R）

本体内蔵のエレクトレットコンデンサステレオマイクです。

④ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑤ CHARGEインジケーター

専用リチウムイオン充電池を充電中に点灯し、充電が完了すると消灯します。

⑥ PEAKインジケーター

録音する音のレベルが大きくなって歪む直前に赤く点灯します。

⑦ HOMEボタン

各種設定画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。また、ホーム画面表示中に押すと、経過時間表示と残量時間表示を切り換えます。

⑧ MENUボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**“MENU”**画面が表示されます。

ホーム画面表示中にこのボタンを長押しすると、バックライトの**“ALWAYS”**（常時点灯）／**“OFF”**（常時消灯）の切り換えを行います。

各種設定画面を表示中に、このボタンを押したときも、**“MENU”**画面に戻ります。

⑨ I/O LOOPボタン

希望の区間をループ再生させるときのIN点（始点）とOUT点（終点）を設定します。IN点（始点）とOUT点（終点）が設定されているときに、このボタンを押すと、IN点（始点）とOUT点（終点）がクリアされます。（ → 50ページ「ループ再生する」）

⑩ QUICKボタン

ホーム画面で停止中／一時停止中／再生中にこのボタンを押すと、クイックメニューがポップアップ表示されます。（ → 45ページ「ファイルに識別用タグを付ける（QUICK TAG）」）、（ → 45ページ「選択されているファイルを削除する（QUICK DEL）」）

⑪ ⏮ボタン

再生中、またはファイルの途中で停止しているときにこのボタンを押すと、再生ファイルの先頭に戻ります。

ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。

押し続けると早戻しサーチを行います。

ENTER/MARKボタンを押しながらこのボタンを押すと、前のマークに移動します。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを左に移動します。

“BROWSE”画面では、階層を戻ります。

⑫ ⏭ボタン

停止中または再生中にこのボタンを押すと、次のファイルにスキップします。

押し続けると早送りサーチを行います。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを右に移動します。

ENTER/MARKボタンを押しながらこのボタンを押すと、次のマークに移動します。

“BROWSE”画面では、階層を進みます。ファイルが選択されているときは、ファイルをロードしてホーム画面に戻り停止します。

録音中に押すと、トラックインクリメントします。

⑬ STOP [■] ボタン

再生中にこのボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。一時停止中にこのボタンを押すと、その再生ファイルの先頭に戻ります。

録音待機中または録音中にこのボタンを押すと、録音を停止します。

各種設定画面の操作では、確認のポップアップメッセージに対して「NO」と答えるときに使います。

⑭ PLAY/PAUSE [►/II] ボタン

ホーム画面で停止中に押すと、再生を始めます。

再生中に押すと、一時停止します。

"BROWSE" 画面で、ファイルまたはフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのファイルまたはフォルダーの最初から再生します。

⑮ PB CONTROLボタン

"PB CONTROL" 画面の表示や機能のオン／オフの切り換えを行います。（ → 51ページ「特殊な再生（再生コントロール機能）」）

⑯ INPUTスイッチ

入力信号を選択します。

⑰ ホイール

各種設定画面において、項目の選択や値の変更に使用します。また、ファイルの再生位置の移動にも使用します。

⑱ ENTER/MARKボタン

各種設定画面の操作では、選択されている項目を決定したり、確認のポップアップメッセージに対して「YES」と答えるときに使います。

録音中または再生中にこのボタンを押すと、手動でマークを付けることができます。

このボタンを押しながらSTOP [■] ボタンを押すと、マークをクリアすることができます。

このボタンを押しながら、⏮ボタンを押すと前のマークに、⏭ボタンを押すと次のマークへ移動します。（ → 40ページ「マーク機能」）

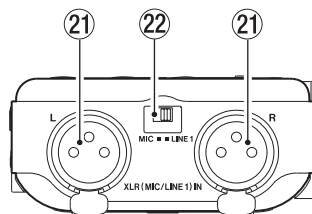
⑲ AUTOボタン

オートレック機能の各種設定や自動録音を行うときに使用します。（ → 39ページ「録音機能を自動で動作させる（AUTO REC）」）

⑳ RECORD [●] ボタン／ RECORDインジケーター

停止中に押すと録音待機状態になり、RECORDインジケーターが点滅します。

録音中に押すと、録音一時停止になります。

フロントパネル

㉑ XLR（MIC/LINE 1）IN L ／ R端子

XLRバランスタイプのアナログ入力端子です。

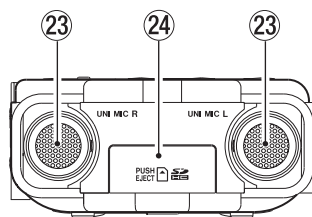
（1：GND、2：HOT、3：COLD）

注意

- これらのXLR（MIC/LINE 1）IN端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- XLR（MIC/LINE 1）IN端子にコンデンサーマイクを接続したり、接続しているコンデンサーマイクを外すときは、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でマイクを接続したり接続を外したりすると、マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源が供給されているXLRコネクターにアンバランスのダイナミックマイクを接続しないでください。マイクおよび本機の故障の原因になります。

㉒ MIC ／ LINE 1スイッチ

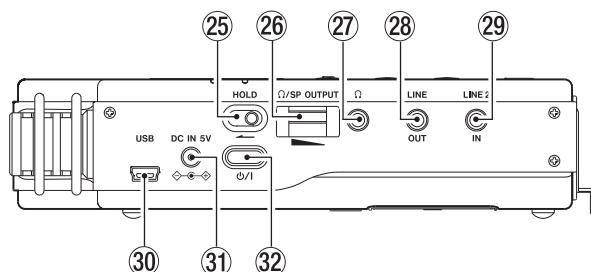
XLR（MIC/LINE 1）IN端子の入力を選択をします。

リアパネル

㉓ 内蔵指向性ステレオマイク（UNI MIC L ／ R）

本体内蔵のエレクトレットコンデンサステレオマイクです。

㉔ SDカードスロット

SDカードの挿入／取り出しをします。

左サイドパネル

㉕ HOLDスイッチ

左側にセット（矢印の方向に移動）するとホールド機能が働きます。

ホールド中は、すべてのボタン操作を受付けません。

㉖ Ω/SP OUTPUTボリューム

内蔵スピーカーまたは Ω 端子から出力される音量を調節します。

㉗ Ω 端子

ヘッドホンを接続する端子です。（ → 28ページ「モニター用機器を接続する」）

㉘ LINE OUT端子

ステレオミニジャックケーブルを使用して外部機器のライン入力端子と接続します。

㉙ LINE 2 IN端子

ステレオミニジャックケーブルを使用してオーディオ機器などのライン出力端子と接続します。

㉚ USB端子

付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続するためのUSBポートです。（ → 52ページ「パソコンと接続する」）

注意

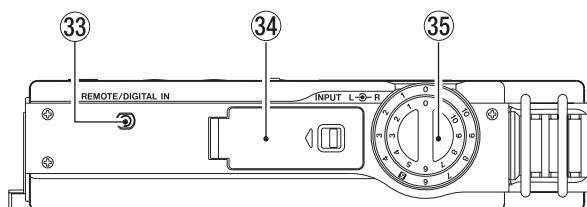
パソコンとの接続は、USBハブを経由せずに直接接続してください。

㉛ DC IN 5V端子

別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）、または別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を接続します。

㉜ ⏻/ I ボタン

長く押すと、電源のオン／オフの切り換えを行います。

右サイドパネル

㉝ REMOTE/DIGITAL IN端子

付属の専用ワイヤレス／ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）、別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を接続します。リモートコントロールによる再生、停止などの操作が可能になります。（ → 58ページ「REMOTE/DIGITAL IN端子を使う」）

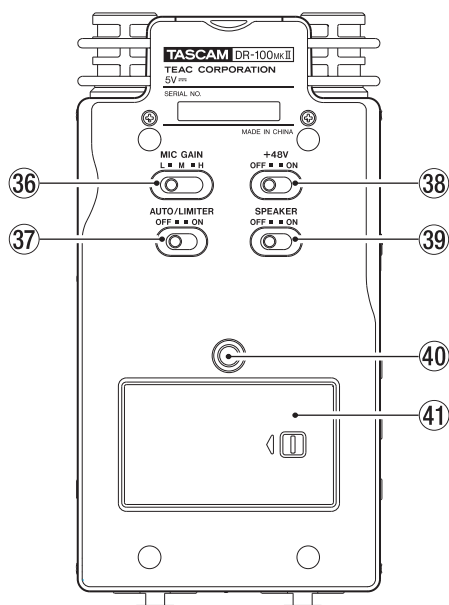
また、付属のデジタル入力変換ケーブルを接続することにより、本機にデジタル信号を入力することができます。（ → 59ページ「デジタル入力する」）

㉞ 電池ケース（専用リチウムイオン充電池）

本機の電源になる専用リチウムイオン充電池を収納するケースです。（ → 22ページ「専用リチウムイオン充電池で使用する」）

㉟ INPUTボリューム

入力信号の音量を調節します。

ボトムパネル

㊱ MIC GAINスイッチ

マイク入力の感度を切り換えます。

㊲ AUTO/LIMITERスイッチ

スイッチをONにするとオートゲインコントロールまたはリミッターが有効になります。（ → 35ページ「レベルコントロール機能を使う」）

㊳ +48Vスイッチ

XLR（MIC/LINE 1）IN L ／ R端子にコンデンサマイクを接続したときにスイッチをONにすると＋48Vの電源を供給します。

注意

＋48VスイッチをONにした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。

㊴ SPEAKERスイッチ

ONに設定すると内蔵スピーカーから音が出力されます。

メ モ

ONにした場合でも録音中や録音待機中、またはヘッドホンを接続しているときには音が出力されません。

㊵ 三脚取り付け用穴（1 ／ 4インチ）

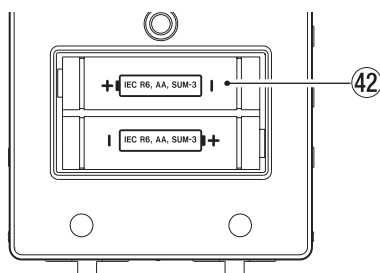
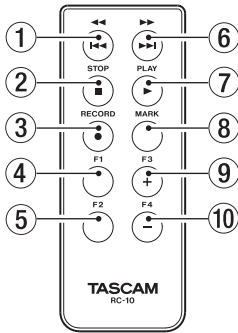
本体に三脚を取り付けることができます。

注意

- 本体の落下を防ぐため、三脚またはマイクスタンド各部のネジを確実に締めてください。
- 三脚またはマイクスタンドに本体を取り付けて使用する場合は、三脚を水平な場所に置いてください。
- 三脚によってはネジの規格の違いにより、直接取り付けられない場合があります。その場合は、市販の変換アダプターをご使用ください。
- 長さ4.5mmを超えるネジは取り付けることができません。

㊶ 電池ケース蓋

㊷ 電池ケース（単3形電池）

本機の電源になる電池（単3形電池、2本）を収納するケースです。（ → 22ページ「単3形電池で使用する」）

ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-10）

① ◀◀ ／ I◀◀ボタン
　ファイルの途中で短く押すと、ファイルの先頭にスキップします。
　ファイルの先頭付近で短く押すと、前のファイルの先頭にスキップします。
　押し続けると早戻しサーチします。

② STOP [■] ボタン
　再生や録音の停止をします。

③ RECORD [●] ボタン
　録音待機や録音の開始、録音一時停止に使用します。

④ F1ボタン
　オートレック機能を使用するときに使用します。
　本体操作と異なり、F1ボタンだけで録音待機状態になります。

メモ

オートレック機能の各設定は、本体の操作で行ってください。

⑤ F2ボタン
　ローカットフィルターの設定を行います。このボタンを押すたびに設定値が変わります。（ → 33ページ「アナログ入力の設定をする」）

→ OFF → 40Hz → 80Hz → 120Hz

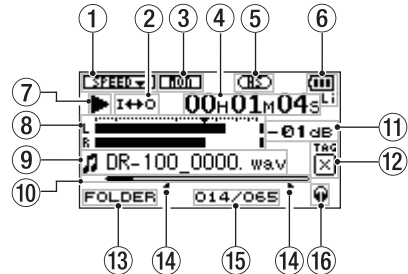
⑥ ▶▶ ／ ▶▶Iボタン
　短く押すと、次のファイルの先頭にスキップします。
　押し続けると早送りサーチをします。

⑦ PLAY [▶] ボタン
　再生を開始します。

⑧ MARKボタン
　録音中または再生中に手動でマークをつけます。

⑨ F3ボタン
　本体の I/O LOOPボタンと同じ働きをします。（ → 50ページ「ループ再生する」）

⑩ F4ボタン
　バックライトの**"ALWAYS"**（常時点灯）／ **"OFF"**（常時消灯）の切り換えを行います。（ → 54ページ「バックライトのオートオフ設定」）

ホーム画面

① 再生速度の設定状態
　再生速度に応じて、以下のアイコンを表示します。

オン	オフ	再生速度
SPEED −	SPEED −	0%
SPEED ▲	SPEED ▲	+1%～+16%
SPEED ▼	SPEED ▼	−50%～−1%
SPEED X		再生スピードの変更不可のとき

② ループ再生／リピート再生の設定状態表示
　状況に応じて、以下のアイコンを表示します。

SINGLE：シングル再生
1 ：1曲リピート再生
ALL：全曲リピート再生
I↔O ：ループ再生

③ モニターミックスの状態表示
　モニターミックスのオン／オフ状態をアイコン表示します。（ → 37ページ「入力音をモニターする」）

：モニターミックスオフ
：モニターミックスオン

④ 経過時間／残量時間
　再生中のファイルの経過時間（時：分：秒）または残量時間（時：分：秒）を表示します。
　ホーム画面表示中にHOMEボタンを押すと、経過時間と残量時間が切り換わります。
　残量時間は、先頭に **"−"** が表示されます。

⑤ 動作モードの状態表示
　動作モードの状態をアイコン表示します。（ → 28ページ「モードの選択」）

：STDモード設定時
HS：HSモード設定時

⑥ 電源供給の状態表示

電源供給の状態に応じて、以下のアイコンを表示します。

：専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2）
：単3形電池
：ACアダプター

電池供給時は、電池残量に応じて目盛りが表示されます（“”、“”、“”）。
目盛り表示がなくなると“”が点滅し、電池切れのためにまもなく電源がオフになります。
別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）、または別売の外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）接続時には、“”を表示します。

メモ

残量がなくなる前でも録音など負荷の大きい動作を行おうとすると“**Battery Low**”のポップアップメッセージが出ることがあります。

⑦ レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	停止中
❚❚	一時停止中
►	再生中
►►	早送り中
◄◄	早戻し中
►►❙	次のファイルの先頭にスキップ
❙◄◄	現在のファイルの先頭または手前のファイルにスキップ

⑧ レベルメーター

入力音または再生音のレベルを表示します。
モニターミックスがオンのときは、入力音と再生音をミックスしたレベルを表示します。

⑨ ファイル情報表示

再生中のファイルのファイル名、またはタグ情報を表示します。
ID3タグ情報を持つMP3ファイルの場合は、ID3タグ情報が優先して表示されます。

メモ

ID3タグ情報とは、MP3ファイルに保存可能なタイトルやアーティスト名の情報です。

⑩ 再生位置表示

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑪ ピーク値のデシベル（dB）表示

一定時間毎に、その期間のレベルの最大値を、デシベル表示します。

⑫ 識別用タグ情報表示

QUICK TAG機能によって付けられた識別用タグの末尾を表示します。

⑬ 再生範囲表示

現在の再生ファイルの範囲を表示します。

ALL　：MUSICフォルダー内の全ファイル
FOLDER　：選択したフォルダー内の全ファイル
P.LIST　：プレイリストに登録されたファイル

⑭ ループ再生のIN点（始点）、OUT（終点）の設定状況

ループ再生のIN点（始点）／OUT点（終点）の設定状況を表示します。
IN点（始点）を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“”アイコンが表示されます。
OUT点（終点）を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“”アイコンが表示されます。

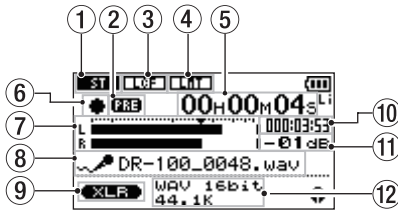
⑮ 再生ファイル番号／総ファイル数

再生対象エリアの総ファイル数と現在のファイル番号を表示します。

⑯ モニター出力表示

状況に応じて、以下のアイコンを表示します。

：ヘッドホンら出力します
：スピーカーから出力します

録音画面

① ステレオ／モノラル状態表示

マイク録音時、ステレオで録音するか、モノラルで録音するのかの設定状態をアイコン表示します。

ST：ステレオ
ST：モノラル

② プリレック機能の設定状態

プリレック機能が **"ON"** かつ録音待機中は、"PRE" アイコンが表示されます。

③ ローカットフィルターオン／オフ状態表示

ローカットフィルターのオン／オフ状態をアイコン表示します。オンのときは、設定したローカットフィルターの周波数を反転表示します。

LCF：ローカットフィルターオフ
40：ローカットフィルターオン（40Hz）
80：ローカットフィルターオン（80Hz）
120：ローカットフィルターオン（120Hz）

④ レベルコントロール機能／リミッター機能状態表示

AUTO：オートゲインコントロールオフ
AUTO：オートゲインコントロールオン
LMT：リミッターオフ
LMT：リミッターオン

⑤ 録音経過時間／録音残時間

録音ファイルの経過時間（時：分：秒）、または設定した最大ファイルサイズに対する残時間（時：分：秒）を表示します。ただし、SDカードの残り時間の方が少ない場合は、そちらを表示します。

録音待機中または録音中にHOMEボタン押すと、録音経過時間と録音残時間が切り換わります。

録音残時間表示中は、先頭に **"ー"** が表示されます。

⑥ レコーダー動作状況表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	録音待機中
❚❚	録音一時停止中
●	録音中

⑦ レベルメーター

入力音のレベルを表示します。

オーバーダビング中は、入力音と再生音をミックスしたレベルを表示します。

目盛りには、－16dBの位置にアナログ入力レベル調整時の目印となる "▼" マークがあります。

⑧ ファイル名表示

録音するファイルに自動的に付けられるファイル名を表示します。

⑨ 入力信号設定状態表示

入力されている信号をアイコン表示します。

XLR：XLR（MIC/LINE 1）IN L ／ R端子から入力
UNI：UNI MIC L ／ R（指向性）から入力
OMNI：OMNI MIC L ／ R（無指向性）から入力
LINE：LINE 2 IN L ／ R端子から入力

⑩ SDカード録音残時間

常に本機に挿入されているSDカードに対する録音の残時間（時：分：秒）を表示します。

⑪ ピーク値のデシベル（dB）表示

録音レベルのピーク値をデシベル表示します。

⑫ 録音モード／サンプリング周波数表示

録音ファイルの形式と録音ファイルのビット長とサンプリング周波数を表示します。

メニューの構成

MENUボタンを押すと、**"MENU"** 画面が表示されます。メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
INFORMATION	ファイル情報、SDカード情報、システム情報を表示します。	→ 53ページ
BROWSE	SDカード内のファイル、フォルダー操作をします。	→ 43ページ
PLAYLIST	プレイリストの編集を行います。	→ 48ページ
PLAY MODE	再生範囲、リピート再生の設定をします。	→ 46ページ → 50ページ
INPUT SETTING	アナログ入力の設定をします。	→ 33ページ → 35ページ → 37ページ
REC SETTING	録音の設定をします。	→ 30ページ → 41ページ
MIX BALANCE	入力音と再生音のレベルを調節します。	→ 38ページ
DIVIDE	ファイルの分割を行います。	→ 36ページ
FILE NAME	ファイル名の設定をします。	→ 57ページ
REMOTE/ DIGI IN	別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F)、付属の専用ワイヤレス／ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10)、またはデジタル入力の切り換えと設定をします。	→ 58ページ
SETUP	各種設定を行います。	→ 54ページ
BATTERY	電池に関する設定をします。	→ 56ページ
DATE/TIME	日付､時刻の設定をします。	→ 26ページ

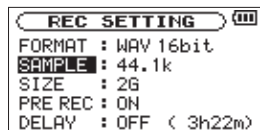
メニューを使う

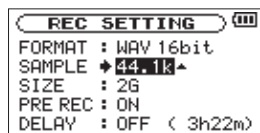
サンプリング周波数を変更することを例に説明します。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。

2. ホイールを使ってメニュー項目を選択（ 反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、各種設定画面に移動します。

[REC SETTING 選択時]

3. ホイールを使って、設定する項目を選択（反転表示）します。

[REC SETTING画面]

4. ►►I ボタンまたはENTER/MARKボタンを押すと、設定内容にカーソルが移動します（反転表示）。

5. ホイールを使って、設定を変更します。
6. 同じメニュー内の別の項目を設定する場合は、I◄◄ ボタンを押します。
   設定項目選択状態に戻りますので、ホイールを使って設定したい項目を選択（反転表示）します。
7. 必要に応じて、3.～6,を繰り返して、各項目を設定します。
8. MENUボタンを押すと、**"MENU"** 画面に戻ります。
   HOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

MENUボタン

"MENU"画面を呼び出します。

PB CONTROLボタン

"PB CONTROL"画面を呼び出します。

AUTOボタン

"AUTO REC"画面を呼び出します。

HOMEボタン

各設定画面を表示中にHOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

ENTER/MARKボタン

各設定項目の選択を確定したり、確認のポップアップメッセージに対して「YES」を選択するときに使用します。

STOPボタン

確認のポップアップメッセージに対して「NO」を選択するときに使用します。

►►I ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を右に移動するときや、**"BROWSE"**画面でフォルダーを開くときに使用します。

I◄◄ ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を左に移動するときや、**"BROWSE"**画面でフォルダーを閉じるときに使用します。

ホイール

各項目を選択（反転表示）したり、値を変更するときに使用します。

QUICKボタン

ホーム画面にクイックメニューをポップアップ表示します。

第3章　準備

電源の準備

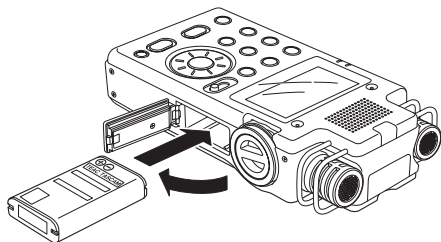
電源について

本機は、付属の専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2）、単3形電池2本、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）、または別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を使って、本機に電源を供給します。
専用リチウムイオン充電池と単3形電池は併用して使用することができ、長時間の連続動作が可能です。一方の電池残量がなくなってしまった場合など、動作を継続させたまま電池を交換することもできます。
本機は、単3形アルカリ乾電池、および単3形ニッケル水素電池に対応しています。

注意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。

専用リチウムイオン充電池で使用する

本機の側面にある電池ケースふたを開け、正しい向きで挿入し、電池ケースふたを閉めます。

専用リチウムイオン充電池を充電するには：

専用リチウムイオン充電池は、次の二つの方法で充電することができます。

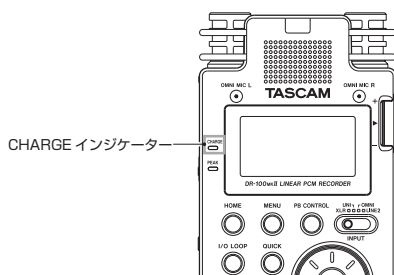
ACアダプターで充電する

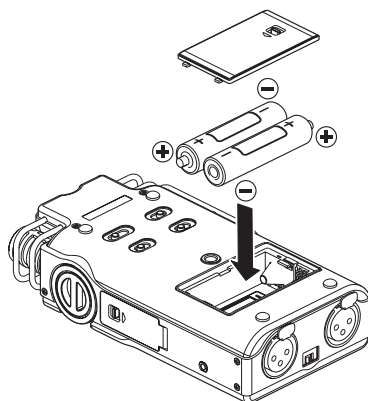
別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を本機の**DC IN 5V**端子に接続します。（→ 23ページ「ACアダプターで使用する（別売）」）
充電時間は、約3時間です。

パソコンで充電する

付属のUSBケーブルでパソコンに接続して充電します。（→ 52ページ「パソコンと接続する」）
充電時間は、約6時間です。

メモ

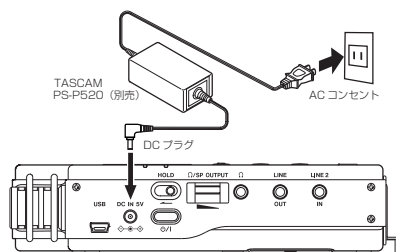
- パソコンと本機は、直接接続してください。USBハブを経由した場合の動作は保証できません。
- USB接続中は、本機の電源を入れなくても充電できます。
- USB端子から充電するとき、本機はUSB接続モードになるため、本体機能は使用できません。
- 充電中は、CHARGEインジケーターが点灯し、充電が完了すると消灯します。

単3形電池で使用する

本機の裏面にある電池ケース蓋を開け、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて、単3形電池を2本セットして、電池ケース蓋を取り付けます。

単3形電池で使用するとき、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。（→ 56ページ「電池の種類を設定する（AA BATTERY）」）

電池を併用して使用するには

専用リチウムイオン充電池と単3形電池を両方挿入しておくと、一方を主電池（MAIN）、もう一方を予備電池として使用することができます。（→ 56ページ「主電池を設定する（MAIN）」）
これにより、主電池が動作可能な残量を下回ったとき、自動的に予備電池に切り換わり、動作を継続させることができます。また、主電池で動作中は電源を入れたまま予備電池を交換することができます。長時間連続して使用したい場合に便利です。（→ 56ページ「電源を切らずに電池を交換する」）

ACアダプターで使用する（別売）

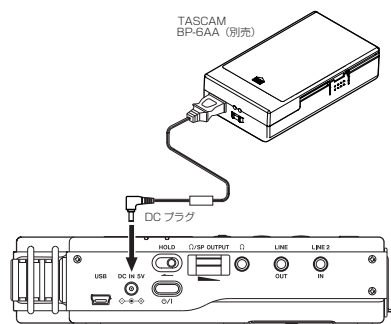
図のように、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を**DC IN 5V**端子に接続します。

注意

- 必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

メモ

電池を挿入したままACアダプターを接続した場合は、ACアダプターから電源が供給されます。
専用リチウムイオン充電池を挿入しているときは、本機を使用しながら充電することができます。

外付けバッテリーパックで使用する（別売）

図のように、別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を**DC IN 5V**端子に接続します。

注意

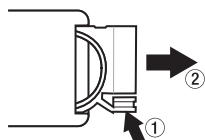
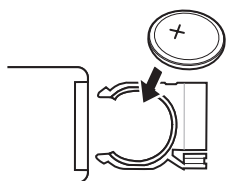
必ず別売の専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。

メモ

電池を挿入したまま専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）と付属のコードを接続した場合は、専用外付けバッテリーパックから電源が供給されます。

リモコンを準備する

コイン形電池の入れ方

1. リモコンから電池ホルダーを抜きます。
   ①の部分を押しながら②の方向へ引き抜きます。

2. ⊕、⊖の向きに注意して、コイン形リチウム電池（CR2025）を電池ホルダーに入れます。

3. リモコンに電池ホルダーを差し込みます。

メモ

本機をお買い上げ時には、リモコン用コイン形リチウム電池（CR2025）がリモコンに入った状態で同梱されています。リモコンをご使用になる場合は、電池ホルダーに差し込まれている絶縁シートを引き抜いてください。

電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、新しい電池に交換してください。
電池は、コイン形リチウム電池（CR2025）をご使用ください。

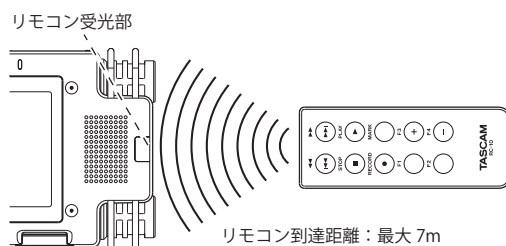
電池についての注意

コイン形リチウム電池は、小さなお子様が誤って電池を飲み込むと大変危険です。電池およびリモコンは、幼児の手の届かない場所に置いてください。万一、お子様が電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
（ → 5ページ「電池の取り扱いについて」）

- コイン形リチウム電池の向きを正しく入れてください。
- コイン形リチウム電池は、充電しないでください。
- コイン形リチウム電池を加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。
- コイン形リチウム電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
- 保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属製のものと接触しないように、テープなどで端子を絶縁してください。
- 使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法にしたがって捨ててください。

リモコンを使う（TASCAM RC-10）

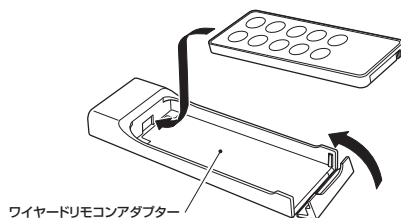
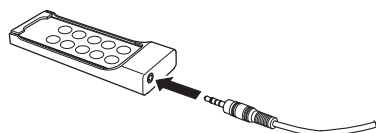
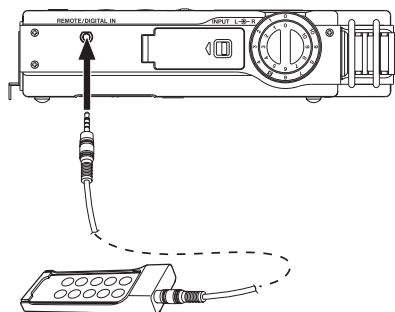
ワイヤレスリモコンで使う

本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

注意

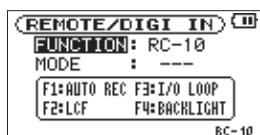
- 到達距離は、角度により変化します。
- 障害物があると、操作できないことがあります。

ワイヤードリモコンで使う

ワイヤードリモコンアダプターとケーブル装着

1. リモコン本体をワイヤードリモコンアダプターに挿入します。

2. ワイヤードリモコンアダプターにケーブルを差し込みます。

3. 右サイドパネルのREMOTE/DIGITAL IN端子にケーブルを差し込みます。

リモコンを設定する

"REMOTE/DIGI IN"設定画面で、リモコンの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"REMOTE/DIGI IN"**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "REMOTE/DIGI IN"設定画面を表示します。
3. ホイールを使って**"FUNCTION"**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►|ボタンを押します。
4. **"FUNCTION"**項目をホイールを使って**"RC-10"**を選択します（初期値：**"RC-10"**）。

5. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

リモコン使用上の注意

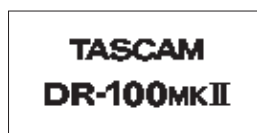
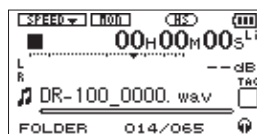
- 長い間（一ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、コイン形リチウム電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しいコイン形リチウム電池を入れてください。
- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- 付属のケーブル以外のものを使用した場合は、本体およびリモコンを破損することがあります。
- **"REMOTE/DIGI IN"**画面の**"FINCTION"**項目が**"RC-10"**を選択したときのみ、リモコンからの操作が可能です。（→ 25ページ「リモコンを設定する」）

電源をオンにする／オフにする

注意

- 本機の電源のオン／オフは、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン／オフ時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

電源をオンにする

電源がオフ時に、左サイドパネルの ⏻/ | ボタンを長押しし、"TASCAM DR-100MKII"（起動画面）が表示されたら離します。
本機が起動してホーム画面が表示されます。

[起動画面]

[ホーム画面]

注意

初回電源投入時（および電池がない状態でしばらく置いたため内蔵時計がリセットされたとき）には、起動画面が表示される前に、日時を設定する**"DATE/TIME"**画面が表示されます。（→ 26ページ「日時を設定する」）

電源をオフにする

電源オン時に、左サイドパネルの ⏻/❙ ボタンを長押しし、**"LINEAR PCM RECORDER"** と表示されたら離します。
シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。

注意

電源を切るときは、必ず ⏻/❙ ボタンで行ってください。電源がオンのときに主電池を外したり、電池が装着されず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）で使用している時に電源コードを抜いたりすると録音データや設定などがすべて失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

電池の設定をする

専用リチウムイオン充電池と単3形電池を両方挿入しておくと、一方を主電池（MAIN)、もう一方を予備電池として使用することができます。（ → 56ページ「主電池を設定する（MAIN)」）
これにより、主電池が動作可能な残量を下回っても自動的に予備電池に切り換えて動作を継続させることができます。また、単3形電池で使用するとき、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定する必要があります。（ → 56ページ「電池の種類を設定する（AA BATTERY)」）

日時を設定する

本機は、本体内の時計をもとに、録音したファイルに日時を記録します。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。

2. ホイールを使って **"DATE/TIME"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。

"DATE/TIME" 画面が表示されます。

3. ⏮ ボタンまたは ⏭ ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、ホイールを使って値を変更します。
4. ENTER/MARKボタンを押すと確定し、**"MENU"** 画面に戻ります。

メモ

- 時間を設定するときの時計表示は、止まった状態です。
- ここで設定した日時をファイルの名前に付けることができます。（ → 57ページ「ファイル名の形式を設定する」）

注意

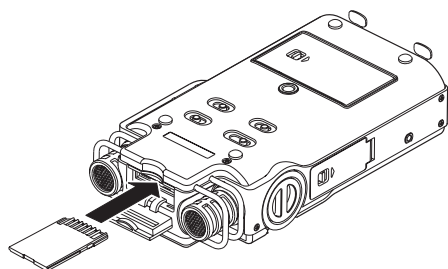
日時の設定は、電池のない状態または別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）の接続がない状態では、数分しか保持しません。
電池でお使いの場合は、完全に電池がなくなる前に電池交換することをお勧めします。

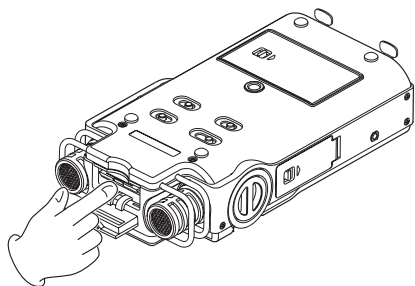
SDカードを挿入する／取り外す

挿入する

メモ

本機をお買い上げ時、SDカードスロットにSDカードが挿入されています。このSDカードをそのまま使って録音／再生を行う場合は、改めて挿入し直す必要はありません。

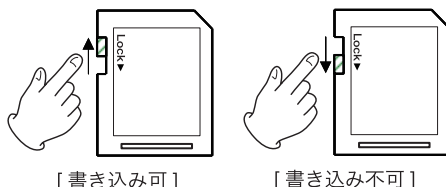
1. リアパネルのSDカードスロットのカバーをあけます。
2. SDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。

取り外す

1. SDカードスロットのカバーをあけます。
2. SDカードを軽く押し込んでから放すと手前に出てきます。

注意

- パソコンとUSB接続中、本機からSDカードを取り外さないでください。
- 使用できるSDカードは、SD/SDHC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

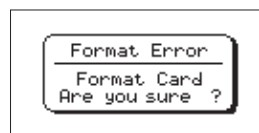
SDカードのライトプロテクトについて

SDカードには、プロテクト（書き込み防止）スイッチがついています。

[書き込み可]　[書き込み不可]

プロテクトスイッチを「LOCK」の方向へスライドするとファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、書き込み禁止を解除してください。

SDカードを使えるようにする

本機でSDカードを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

1. SDカードが挿入されていることを確認し、電源をオンにします。
2. 新しいカード、または本機以外でフォーマットされたSDカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。

3. ENTER/MARKボタンを押すと、フォーマットを開始します。

注意

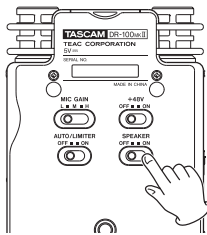
フォーマットを行うと、カード上のデータはすべて失われます。

4. フォーマットが終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。（ → 55ページ「クイックフォーマットする」）、（ → 55ページ「フルフォーマットする」）

注意

フォーマットは、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を使用するか、電池の残量が十分な状態で行ってください。

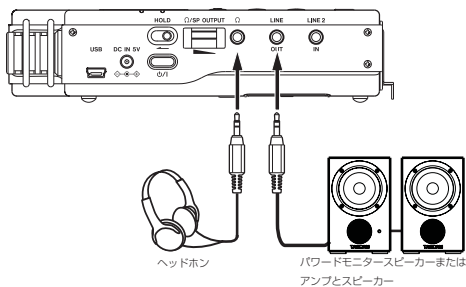
内蔵スピーカーで再生する

本機の内蔵スピーカーで再生音を聴く場合は、ボトムパネルのSPEAKERスイッチをONに設定してください。

メモ

録音待機中または録音中のとき、またはヘッドホンを接続すると、SPEAKERスイッチがONに設定されていても、スピーカーから音は出力されません。

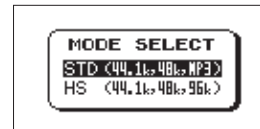
モニター用機器を接続する

ヘッドホンで聴く場合は、左サイドパネルの 🎧 端子にヘッドホンを接続してください。

外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、左サイドパネルのLINE OUT端子に外部モニターシステムを接続してください。

モードの選択

録音または再生に使用する動作モードの設定します。

モードを設定する

1. ENTER/MARKボタンを押しながら ⏻/❙ ボタンを押して電源を入れると、**“MODE SELECT”** 画面（モード選択画面）を表示します。

STD（初期値）

サンプリング周波44.1k/48kHzのWAVファイルとMP3ファイルが利用できる従来のモード。

HS

サンプリング周波44.1k/48k/96kHzのWAVファイルが利用できるモード。

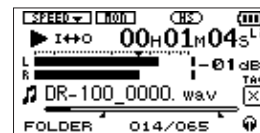
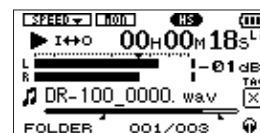
2. ホイールを使って使用するモードを選択し、ENTER/MARKボタンを押して設定します。

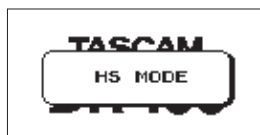
3. 選択されたモードで起動します。

メモ

以降、選択されたモードは記憶され、次回電源投入時にも選択されたモードにて起動します。

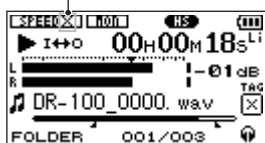
モードの確認

設定されているモードの確認は、STDモード設定時のホーム画面は“HS”アイコンを表示し、HSモード設定時のホーム画面は“HS”アイコンを表示します。

[STDモード設定時のホーム画面]

[HSモード設定時のホーム画面]

HSモード設定時の起動時には、**"HS MODE"** とポップアップ表示します。

HSモードにおける制約事項

HSモードでは、下記の制約事項があります。

- MP3ファイルの録音再生はできません。STDモードでご使用ください。
- サンプリング周波数が96kHzのWAVファイルへのオーバーダビングはできません。
- サンプリング周波数が96kHzのWAVファイルでは、ホーム画面上の **"SPEED"** アイコン表示に **"X"** が表示され、再生スピード可変機能やVSA機能（再生コントロール機能）が動作しません。

機能無効表示

- サンプリング周波数が96kHzのWAVファイルのループ再生では、ループ開始時に間隔が空きます。
- サンプリング周波数が96kHzのWAVファイルのトラックインクリメントでは、録音時間が4秒以内のファイルを作成することはできません。

第4章　録音

本機は、内蔵ステレオマイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）からの信号を録音することができます。録音オーディオファイル形式は、MP3形式（32k ～ 320kbps、44.1k/48kHz）、WAV形式（44.1k/48k/96kHz、16/24ビット）から設定可能です。
また本機では、オーディオファイルを再生しながら入力信号をミックスして別ファイルとして録音することができます（オーバーダビング機能、96kHzを除く）。

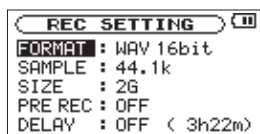
モードを設定する

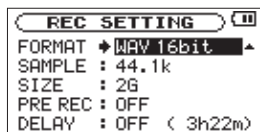
録音に使用する動作モードの設定します。（ → 30ページ「モードの選択」）
動作モードによって、設定可能な選択肢がことなります。

ファイル形式／サンプリング周波数／最大ファイルサイズを設定する

録音を実行する前に、録音オーディオのファイル形式を設定します。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ホイールを使って **"REC SETTING"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
"REC SETTING" 画面が表示されます。

```
REC SETTING
FORMAT  : WAV 16bit
SAMPLE  : 44.1k
SIZE    : 2G
PRE REC : OFF
DELAY   : OFF ( 3h22m)
```

3. ホイールを使って **"FORMAT"** 項目を選択（反転表示）し、►►I ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。

```
REC SETTING
FORMAT  ➧ WAV 16bit
SAMPLE  : 44.1k
SIZE    : 2G
PRE REC : OFF
DELAY   : OFF ( 3h22m)
```

ここでファイル形式を設定します。
ホイールを使って、以下の中から設定します。

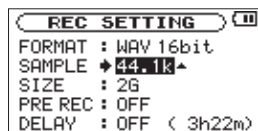
STDモード時の選択肢： **"WAV 16bit"**（初期値）、**"WAV 24bit"**、**"MP3 32kbps"**、**"MP3 64kbps"**、**"MP3 96kbps"**、**"MP3 128kbps"**、**"MP3 192kbps"**、**"MP3 256kbps"**、**"MP3 320kbps"**

HSモード時の選択肢： **"WAV 16bit"**（初期値）、**"WAV 24bit"**

メモ

- WAV形式の方がMP3形式よりも高音質で録音ができます。
- MP3形式の方がWAV形式よりも長時間録音ができます。
- MP3形式の場合は、値が大きいほど高音質で録音ができます。

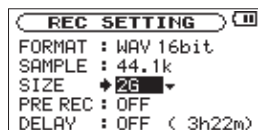
4. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態にします。
5. ホイールを使って **"SAMPLE"** 項目を選択（反転表示）し、►►I ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。

```
REC SETTING
FORMAT  : WAV 16bit
SAMPLE  ➧ 44.1k
SIZE    : 2G
PRE REC : OFF
DELAY   : OFF ( 3h22m)
```

ここでサンプリング周波数を設定します。
ホイールを使って、以下の中から設定します。

STDモード時の選択肢： **"44,1k"**（初期値）、**"48k"**

HSモード時の選択肢： **"44,1k"**（初期値）、**"48k"**、**"96k"**

6. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態にします。
7. ホイールを使って **"SIZE"** 項目を選択（反転表示）し、►►I ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。

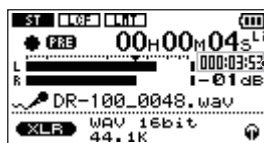
```
REC SETTING
FORMAT  : WAV 16bit
SAMPLE  : 44.1k
SIZE    ➧ 2G
PRE REC : OFF
DELAY   : OFF ( 3h22m)
```

ここで最大ファイルサイズを設定します。
ホイールを使って **"64M"**、**"128M"**、**"256M"**、**"512M"**、**"1G"**、**"2G"**（初期値）の中から設定します。

メモ

- 録音中に、**"REC SETTING"** 画面で設定した最大ファイルサイズを超えると、新たな別のファイルとして録音を継続します。
- ファイル形式によって、同じ最大ファイルサイズにおける録音時間が異なります。
この値は、設定値の右側にある括弧の中に表示されます。
- 録音時間が24時間を超える場合は、自動的に停止します。

8. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

録音可能時間表示

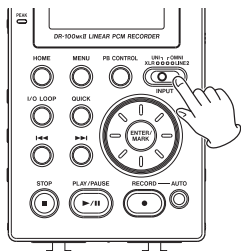
SDカードの容量や録音モード、サンプリング周波数の設定に応じて録音時間が異なります。（ → 42ページ「録音時間について」）
本機に挿入されているSDカードに対する録音可能時間は、録音画面で確認することができます。

また、設定したファイルサイズに対する録音可能時間は、**"REC SETTING"** 画面で確認することができます。録音可能時間は、**"REC SETTING"** 画面の設定内容によって異なります。

REC SETTING
FORMAT : WAV 16bit
SAMPLE : 44.1k
SIZE : 2G
PRE REC : OFF
DELAY : OFF (3h22m) ― 録音可能時間

ファイルの保存先を選択する

録音したファイルの保存するフォルダーを選択します。詳細は、44ページ「フォルダー操作」の **"SELECT"** ポップアップメニュー項目を参照してください。
特に指定しない場合は、《MUSIC》フォルダーの下にファイルが作成されます。

アナログ入力を選択する

トップパネルのINPUTスイッチを切り換えることにより、アナログ入力ソースを選択することができます。

XLR
　フロントパネルのXLR（MIC/LINE 1）IN端子から入力する

UNI
　内蔵指向性ステレオマイクから入力する

OMNI
　内蔵無指向性ステレオマイクから入力する

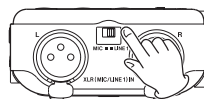
LINE 2
　左サイドパネルのLINE 2 IN端子から入力する

注意

本機は、音量の小さい音でも録音ができるよう、高ゲイン設計となっています。そのため、ACアダプター使用時にマイクゲインを高く設定している時、設置条件によってはマイク部に触れるとノイズ（ハム、うなり）が聞こえる場合があります。内蔵マイク録音時には、マイク部に触らないようにしてください。（→ 34ページ「手動でアナログレベルを調整する」）

メモ

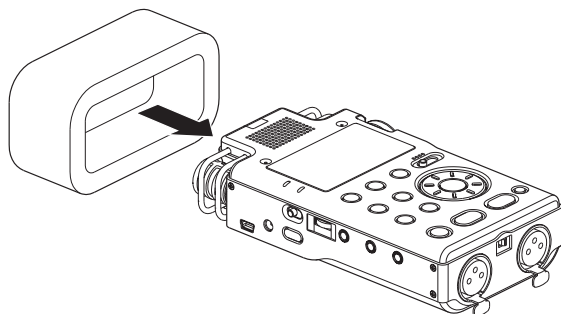
"REMOTE/DIGI IN" 設定画面の **"FUNCTION"** 項目が **"DIGI IN"** に設定した場合は、トップパネルのINPUTスイッチを切り換えても、ポップアップメッセージを表示し、入力を切り換えることができません。（→ 59ページ「デジタル入力する」）

また、フロントパネルのMIC ／ LINE 1スイッチを切り換えることにより、XLR（MIC/LINE 1）IN端子の入力を選択することができます。

MIC
　外部マイクを接続する場合にする場合に設定します。

LINE 1
　外部オーディオ機器の出力と接続する場合に設定します。

内蔵マイクで録音する（UNI ／ OMNI）

UNI MICを使って録音する

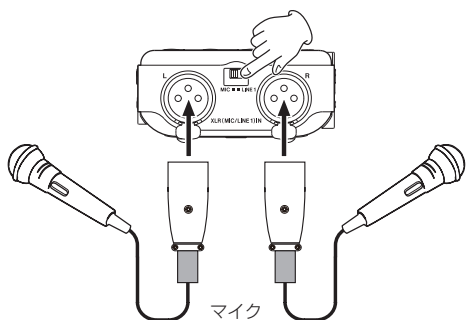
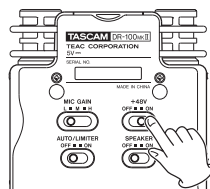
トップパネルのINPUTスイッチをUNIに設定します。
楽器演奏やバンドなどのライブ録音、フィールドレコーディングなどに適しています。
マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。
風により発生する雑音が気になるときは、付属の専用ウインドスクリーンを取り付けてください。

OMNI MICを使って録音する

トップパネルのINPUTスイッチをOMNIに設定します。
会議録音など、広い空間の全体を録音したいときなどに適しています。
振動の少ない、安定した場所に設置してください。

メモ

空調機の音や風切り音などの雑音が気になるときは、ローカットフィルターをご使用ください。（→ 33ページ「アナログ入力の設定をする」）

外部マイクで録音する（XLR）

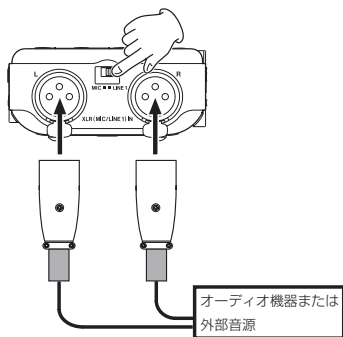
トップパネルのINPUTスイッチをXLRに設定します。
フロントパネルのMIC／LINE 1スイッチをMICに設定します。
外部マイクをフロントパネルのXLR（MIC/LINE 1）IN端子に接続します。
マイクを1本だけ接続して録音するときに、接続したマイクの入力信号をL ／ Rそれぞれのチャンネルに入力して録音することができます。（ → 33ページ「アナログ入力の設定をする」）

ファントム電源を必要とするコンデンサマイクを使用する場合は、ボトムパネルの+48VスイッチをONにしてください。

ファントム電源について

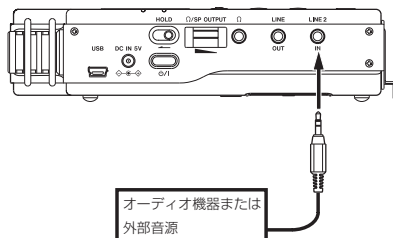
ボトムパネルの+48VスイッチをONにすると、ファントム電源がオンになりマイクに供給されます。

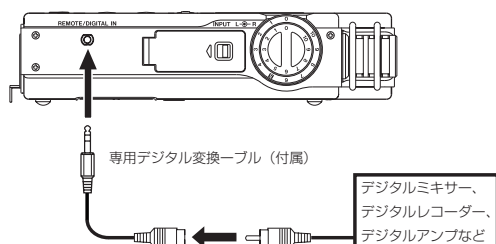
注意

- XLR（MIC/LINE1）IN端子にライン機器を接続する場合は、+48Vスイッチ（ファントム電源）がOFFになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- XLR（MIC/LINE1）IN端子にコンデンサーマイクを接続したり、接続しているコンデンサーマイクを外すときは、+48Vスイッチ（ファントム電源）がOFFになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でマイクを接続したり、外したりすると、マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源が供給されているXLR（MIC/LINE1）IN端子に、アンバランスのダイナミックマイクを接続する場合はファントム電源を供給しないでください。マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。
- ファントム電源使用中は、ACアダプターの抜き差しは行わないでください。本機の故障の原因になります。
- ファントム電源をご使用の場合は、電池の持続時間が短くなりますので、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）や外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）のご使用をお勧めします。
- ファントム電源をアルカリ乾電池で使用する場合、マイクによっては極端に使用時間が短くなる場合がありますので、電池で使用する場合は付属の専用リチウムイオン充電池（付属のTASCAM BP-L2）もしくは外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）でのご使用をお勧めします。
- 電池の持続時間は、使用するマイクによって変ります。詳しくは、マイクの取扱説明書などをご覧ください。

外部機器から録音する（LINE 1）

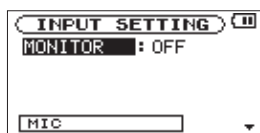
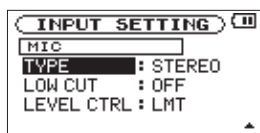
トップパネルのINPUTスイッチをXLRに設定します。
フロントパネルのMIC ／ LINE 1スイッチをLINE 1に設定します。
XLRケーブルを使用して、外部オーディオ機器の出力をフロントパネルのXLR（MIC/LINE 1）IN端子に接続します。

外部機器から録音する（LINE 2）

トップパネルのINPUTスイッチをLINE 2に設定します。
ステレオミニプラグケーブルを使用して、外部オーディオ機器（ポータブルCDプレーヤーのヘッドホン端子など）の出力を右サイドパネルのLINE 2 IN端子に接続します。

デジタル入力を選択する

デジタルオーディオケーブルを使用して、外部デジタルオーディオ機器（CDプレーヤーのデジタル端子など）の出力を、付属の専用デジタル変換ケーブルを使って、左サイドパネルのREMOTE/DIGITAL IN端子に接続します。

"REMOTE/DIGI IN"設定画面の**"FUNCTION"**項目を**"DIGI IN"**に設定すると、外部デジタルオーディオ機器からのデジタル出力を録音することができます。（ → 59ページ「デジタル入力する」）

アナログ入力の設定をする

マイク入力時の各種機能を設定します。
外部XLRマイクを1本だけ接続して録音するときなどに、接続したマイクの入力信号をL ／ Rそれぞれのチャンネルに入力して録音することができます。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"INPUT SETTING"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
"INPUT SETTING"画面が表示されます。

3. ホイールを使って、以下の画面を表示します。

この画面には、以下のマイク入力時の設定項目があります。
⏮ボタン、⏭ボタン、およびホイールを使って、各項目の設定を行います。

TYPE：
接続する外部マイクに応じて、ステレオ（**"STEREO"**（初期値））またはモノラル（**"MONO"**）を設定します。
"MONO"に設定すると、L ／ R両チャンネルに同じ信号が供給されます。

LOW CUT：
マイク入力時のローカットフィルターを設定します。
カットオフ周波数は**"40Hz"**、**"80Hz"**または**"120Hz"**から選択できます。初期値は**"OFF"**です。

LEVEL CTRL：
マイク入力時の録音レベルコントロール機能を設定します。初期値は**"LMT"**です。（ → 35ページ「レベルコントロール機能を使う」）
"LMT"（リミッター）にすると、アナログ入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないような録音レベルになります。
"AUTO"（オートゲインコントロール）にすると、小さい入力信号は音量を上げつつ、入力信号が大きいときには感度を下げて、音量がなるべく均一になるように自動的に調節します。

メモ

- 入力がLINE 1 ／ 2のときは**"TYPE"**項目の設定にかかわらず、常に**"STEREO"**となります。
- 入力がLINE 1 ／ 2のときは、**"LOW CUT"**項目の設定にかかわらず、常に**"OFF"**となります。
- **"LEVLE CTRL"**項目の**"AUTO"**を選択したとき、音量は自動的に変化するため、INPUTボリュームの操作は無効です。
- 入力がLINE 1 ／ 2のとき、**"LEVLE CTRL"**項目の設定にかかわらず、常に**"LMT"**（リミッター）となります。

注意

- **"TYPE"**項目の設定**"MONO"**を選択して録音した場合は、モノラルファイルではなく、L ／ Rそれぞれのチャンネルに同じ音が録音されたステレオファイルとなります。
- マイクを使って録音を行うときは、モニターシステムにヘッドホンを使って行ってください。スピーカーを使ってモニターすると、スピーカーの出力音が入力されて、正常な音で録音できなかったり、ハウリング（フィードバック）を起こす可能性があります。

ヒント

- **"LOW CUT"**項目の空調機の音や屋外の録音などで風の音が入る場合は、**"LOW CUT"**項目を**"OFF"**以外の設定にしてみてください。
- ライブなどで不意に大きな音が入力されてしまうようなときに**"LEVEL CTRL"**項目を**"LMT"**にすると、過大入力を防いで歪みのない録音ができます。

アナログ入力レベルを調節する

録音した音もしくは信号が、入力が大きすぎて歪んでいたり、小さすぎてノイズに埋もれてしまうことを避けるために、録音する前にアナログ入力レベルを調節する必要があります。
手動で調節する機能の他にオートゲインコントロール、リミッターの二つのレベルコントロール機能もありますので、お好みに応じてお使いください。

ヒント

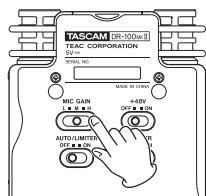
アナログ入力レベルの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。

手動でアナログ入力レベルを調節する

入力のレベルを調節します。

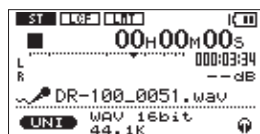
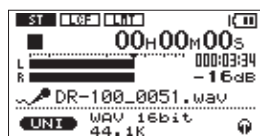
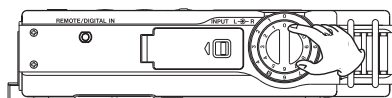
注意

レベルコントロール機能のオートゲインコントロールを選択（録音画面の左上に“AUTO”が点灯）しているときは、手動での調節はできません。手動でアナログ入力レベルを調節するためには、**“INPUT SETTING”**画面の**“LEVEL CTRL”**項目を**“LMT”**に設定してください。（→ 35ページ「レベルコントロール機能を使う」）

1. ボトムパネルのMIC GAINスイッチを設定します。

MIC GAIN
L（LOW）：バンド演奏などの大きな音や近い音源を録音するとき
M（MID）：アコースティックギターや管楽器などの音を録音するとき
H（HIGH）：会議や音声などの小さな音や遠い音源を録音するとき

注意

- 本機は、音量の小さい音でも録音ができるよう、高ゲイン設計となっています。そのため、ACアダプター使用時にマイクゲインを高く設定している時、設置条件によってはマイク部に触れるとノイズ（ハム、うなり）が聞こえる場合があります。内蔵マイク録音時には、マイク部に触らないようにしてください。
- 入力にLINE 1 ／ 2を選択したときは、MIC GAINの設定は無効です。

2. RECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。RECORDインジケーターが点滅し、録音画面が表示されます。

3. 右サイドパネルのINPUTボリュームを使って、アナログ入力レベルを調節します。

入力音が大きすぎる場合は、ディスプレーの左側のPEAKインジケーターが赤く点灯します。
レベルメーターには、－16dBの位置に“▼”の目印が付いています。この目印を中心にレベルが変化し、かつPEAKインジケーターが赤く点灯しないようにアナログ入力レベルを設定してください。

メモ

- 録音待機状態を解除するには、STOP［■］ボタンを押します。
- MIC GAINスイッチをM（MID）に設定した場合に、INPUTボリュームを10に近付けてもレベルメーターの振れが大きくならないときは、MIC GAINスイッチをH（HIGH）に設定してください。また、INPUTボリュームを0に近付けてもレベルメーターの振れが小さくならないときは、MIC GAINスイッチをL（LOW）に設定してください。

注意

録音待機時や録音中は、ボトムパネルのSPEAKERスイッチがONの場合でもスピーカーから音は出ません。
モニター音を聞きながらレベル調節や録音を行う場合は、ヘッドホンを左サイドパネルの🎧端子（ヘッドホン端子）に接続してください。
モニター音は、🎧/SP OUTPUTボリュームで調節できます。録音される音には、影響ありません。

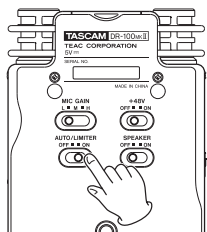
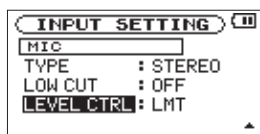
ヒント

- 右サイドパネルのINPUTボリュームの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。
- 大きな音が入力されても歪んで録音されないようにオート

ゲインコントロール機能やリミッター機能を利用することができます。（ → 35ページ「レベルコントロール機能を使う」）

レベルコントロール機能を使う

マイク入力時の録音レベルコントロール機能を設定します。

1. ボトムパネルのAUTO/LIMITERスイッチをONに設定します。

2. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
3. ホイールを使って **"INPUT SETTING"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
"INPUT SETTING" 画面が表示されます。
4. ホイールを使って、以下の画面を表示します。

5. ⏮ボタン、⏭ボタン、およびホイールを使って、**"LEVEL CTRL"** 項目の設定を行います。

LMT（初期値）
　アナログ入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないような録音レベルになります。

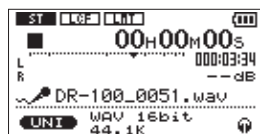
AUTO
　小さい入力信号は音量を上げつつ、入力信号が大きいときには感度を下げて、音量がなるべく均一になるように自動的に調節します。
　会議などで離れた人の声も近くの人の声も同じ音量で録音したい場合などに便利です。

メモ

- **"AUTO"**（オートゲインコントロール）を選択したとき、音量は自動的に変化するため、INPUTボリュームの操作は無効です。
- 入力がLINE 1 ／ 2のとき、設定にかかわらず、常に **"LMT"**（リミッター）となります。

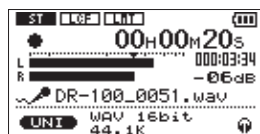
録音する

以下の操作手順は、すでに入力ソースが設定され、アナログ入力レベル調節を行い、ホーム画面が表示されていることを前提にしています。

1. RECORD [●] ボタンを押して、録音待機状態にします。

録音画面の下側には、録音ファイル名とともに、入力ソース、録音オーディオファイル形式およびサンプリング周波数が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

メモ

"INPUT SETTING" 画面の **"MONITOR"** 項目を **"ON"** にして常に入力音をモニターできる状態にした場合は、オーバーダビングをオン／オフ設定するポップアップメニューが表示されます。この場合には、**"OFF"** を反転表示した状態で次の手順2.に進んでください。

2. 再び、RECORD [●] ボタンを押します。
通常の録音が始まります。

録音が始まるとRECORDインジケーターが点灯し、ディスプレーには、録音経過時間および録音残時間が表示されます。

3. 録音を終了するには、STOP [■] ボタンを押します。
録音を一時停止するには、RECORD [●] ボタンまたはPLAY/PAUSE [►/❚❚] ボタンを押します。再度、RECORD [●] ボタンまたはPLAY/PAUSE [►/❚❚] ボタンを押すと、同じファイルに続きが録音されます。
一時停止後にSTOP [■] ボタン を押すと、一時停止までを録音したオーディオファイルが作成されます。

録音中にファイルを切り換えて録音を続ける（トラックインクリメント）

録音中に手動でトラックインクリメントする

録音中にいつでも簡単に手動でファイルを更新し、録音を継続することができます。

1. 録音中に ►►I ボタン を押します。

メモ

新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。

注意

- フォルダーとファイルの総数が999個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成するファイルのファイル名が既に存在する場合は、更に数字が繰り上がります。
- オーバーダビング中は、トラックインクリメントはできません。

ファイルサイズで自動的にトラックインクリメントする（オートトラックインクリメント）

録音を継続したまま、あらかじめ設定した最大ファイルサイズやアナログ入力レベルによって自動的にファイルを更新することが可能です。（ → 30ページ「ファイル形式／サンプリング周波数／最大ファイルサイズを設定する」、→ 40ページ「録音中に自動でファイルを更新する（TRK INC）」）

録音中に自動で不要な無音部分をカットする

録音中に無音部分を検出すると一時停止し、その後、信号が入力されると再び録音を開始します。（ → 39ページ「録音を自動で開始させる」、→ 40ページ「録音中に自動で一時停止させる（PAUSE）」）

このとき、ファイルは更新しませんが、不要な無音部分をカットしながら録音できるため、カードの容量を節約できます。

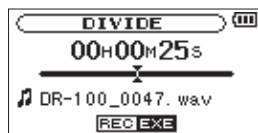
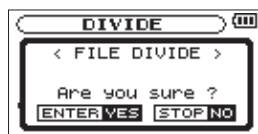
また、一時停止から再び録音を開始する位置に自動的にマークが付けられるため、録音後に分割するときにも便利です。（ → 41ページ「マークの位置への移動」）

ファイルを分割する（DIVIDE）

録音したファイルを任意の位置で、二つのファイルに分割することができます。

連続して録音したひとつのファイルを細かく分割するときに便利な機能です。

1. I◄◄ ボタン、 ►►I ボタン、もしくは **"BROWSE"** 画面で、分割したいファイルを選択します。
2. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
3. ホイールを使って **"DIVIDE"** メニュー項目を選択（反転表示）します。

4. ENTER/MARKボタンを押して、**"DIVIDE"** 画面を表示します。

5. ホイールを使って分割する位置を決定し、RECORD［●］ボタンを押します。
   以下のポップアップメッセージが表示されます。

6. ENTER/MARKボタンを押すと、ファイルが分割されます。
   STOP［■］ボタンを押すと、分割されずに **"DIVIDE"** 画面に戻ります。

メモ

"DIVIDE" 画面表示中にPLAY/PAUSE［►/II］ボタンを押し、再生しながら位置を決めることもできます。

分割すると、ファイル名の末尾に **"_a"** または **"_b"** が付加されたファイルが作成されます。

（例）

分割前のファイル名

DR-100_0000.wav

分割後のファイル名

DR-100_0000_a.wav（分割点より前の部分）

DR-100_0000_b.wav（分割点より後の部分）

注意

- MP3のファイルは、分割できません。
- SDカードの容量が少ない場合は、分割できない場合があります。
- ファイル名が200文字以上になる場合は、分割できません。
- 分割後のファイル名と同名のファイルが存在する場合は、分割できません。

ヒント

- 録音中にあらかじめ分割したい位置にマークを付けておくことができます。
- マークは、手動で付ける方法（ → 40ページ「録音中／再生中に手動でマークを付ける」）と、無音部分を感知し、自動で付ける方法（ → 39ページ「録音中に自動でマークを付ける（MARK）」）があります。
- 録音後にその位置に簡単に移動することができます。（ → 41ページ「マークの位置への移動」）

再生音に入力音を重ねて録音する（オーバーダビング）

既に録音したファイルを再生しながら、その再生音に入力音を重ねて新しいファイルとして録音することができます。

メモ

- インプットモニターがオフのときやプリレック機能がオンのときは、オーバーダビングは実行できません。
- サンプリング周波数が96kHzのWAVファイルへのオーバーダビングはできません。
- オーバーダビングでは、オートレック機能は無効になります。
- オーバーダビング中は、手動でファイルを更新することはできません。
- オーバーダビング中は、一時停止はできません（RECORD [●] ボタン操作を受け付けません）。
- オーバーダビングは、ファイル形式／サンプリング周波数の設定にかかわらず、再生ファイルのファイル形式、サンプリング周波数となります。

入力音を重ねるファイルを選択する

⏮ボタン、⏭ボタン、もしくは **"BROWSE"** 画面で、音を重ねたいファイルを選択します。

メモ

"BROWSE" 画面を使ってのファイルの選択は、43ページ「第5章 ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）」を参照してください。

入力音をモニターする

再生音と入力音を同時に聴くことができるように設定します。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ホイールを使って **"INPUT SETTING"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "INPUT SETTING" 画面が表示されます。
3. ホイールを使って **"MONITOR"** 項目を選択（反転表示）し、⏭ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。

4. ホイールを使って **"MONITOR"** 項目を **"ON"** にします（初期値：**"OFF"**）。
   これで入力音のモニターが可能になります。
5. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ヒント

上記の設定にすると、オーバーダビング以外に、録音した（あるいは取り込んだ）オーディオファイルに合わせて歌や楽器の練習をしたり、カラオケを楽しむことができます。

メモ

この設定は、録音中や録音待機中にはできません。

入力音と再生音のレベルを調節する

1. 入力音を重ねるファイルを、PLAY/PAUSE［►/II］ボタンを押して再生を開始します。
2. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
3. ホイールを使って **"MIX BALANCE"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "MIX BALANCE" 画面が表示されます。

4. ホイールを使って、再生音のレベルを調節します。設定範囲は、**"0"** 〜 **"20"**（初期値）です。
5. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

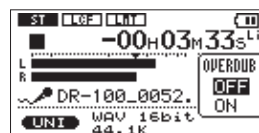
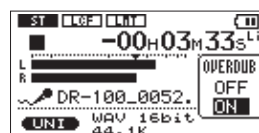
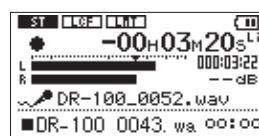
注意

インプットモニターがオフのときは、調節できません。（→ 37ページ「入力音をモニターする」）

メモ

入力音のモニターがオンのときやオーバーダビング中のPEAKインジケーターは、入力音と再生音をミックスした信号の最大レベルを表示します。

オーバーダビングを実行する

1. RECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。
   録音画面にオーバーダビングをオン／オフ設定するポップアップメニューが表示されます。また、録音ファイル名、入力ソース、録音オーディオファイルの形式／サンプリング周波数が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

2. ホイールを使って、オーバーダビングをオン／オフ設定するポップアップメニュー上の **"ON"** を反転表示します。

3. RECORD［●］ボタンを押します。
   オーバーダビングが始まります。
   録音が始まるとRECORDインジケーターが点灯し、録音画面には録音経過時間および録音残時間が表示されます。
   また、下部には再生されているファイル名が表示されます。

再生可能なファイルが選択されていないときは、次のようなポップアップメッセージが表示されます。

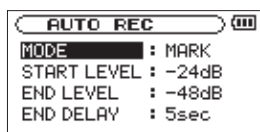
4. 録音を終了するには、STOP［■］ボタンを押します。

メモ

ファイル形式がMP3形式であるとき、オーバーダビングは実行できません。再生ファイルのファイル形式にかかわらず、**"WAV 16bit"** または **"WAV 24bit"** を選択してください。（→ 30ページ「ファイル形式／サンプリング周波数／最大ファイルサイズを設定する」）
また、オーバーダブ録音はサンプリング周波数の設定にかかわらず、再生ファイルのサンプリング周波数に依存します。

録音機能を自動で動作させる（AUTO REC）

オートレック機能は、入力音のレベルに応じて、録音の開始や一時停止、マークの設定、ファイルの更新などを自動で行う機能です。
この機能により、会議中の会話部分だけを録音したり、録音後に頭出しやファイル分割のために利用できるマークを付けたり、自動的にファイルを更新することができます。
オートレック機能を設定するには、AUTOボタンを押して、**"AUTO REC"**画面を表示します。

AUTO REC
MODE : MARK
START LEVEL : -24dB
END LEVEL : -48dB
END DELAY : 5sec

この画面では、以下の設定を行います。

MODE；

オートレック機能のモードを設定します。選択肢は、**"MARK"**（初期値）、**"PAUSE"**、**"TRK INC"**です。

MARK：録音中に自動でマークを付けるモード
PAUSE：録音中に自動で一時停止させるモード
TRK INC：録音中に自動でファイルを更新するモード

START LEVEL（スタートレベル）：

信号が入力されたと判断する基準レベルを設定します。選択肢は、**"OFF"**、**"－6dB"**、**"－12dB"**（初期値）、**"－24dB"**、**"－48dB"**です。

END LEVEL（エンドレベル）：

信号がなくなったと判断する基準レベルを設定します。選択肢は、**"OFF"**、**"－6dB"**、**"－12dB"**、**"－24dB"**（初期値）、**"－48dB"**です。

END DELAY（エンドディレイ）：

信号がなくなったと確定するまでの時間を設定します。選択肢は、**"1sec"**～**"5sec"**（初期値）です。

メモ

- 録音待機中または録音中にAUTOボタンを押すと、オートレック機能の現在の設定を確認することができます。
- オートレックでの録音待機状態では、通常の録音待機状態よりもRECORD［●］ボタンが早く点滅します。

注意

オーバーダビング時は、オートレック機能を使用することはできません。

録音を自動で開始させる

入力音がスタートレベルを上回ると自動で録音を開始します。

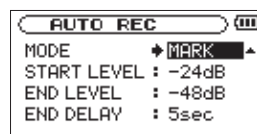
メモ

この機能では、**"MODE"**の設定は関係ありません。

1. AUTOボタンを押して、**"AUTO REC"**画面を表示します。
2. **"START LEVEL"**項目でスタートレベルを設定します。
3. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
4. AUTOボタンを押しながらRECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。
   入力音がスタートレベルを上回ると、自動で録音を開始します。
5. 録音を停止させる場合は、STOP［■］ボタンを押してください。

録音中に自動でマークを付ける（MARK）

録音中に入力音がエンドレベルを下回ったままエンドディレイ時間を経過したとき、また、その後、スタートレベルを上回ったとき、自動的にマークを付けます。

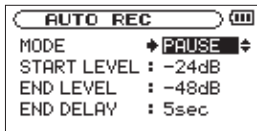
1. AUTOボタンを押して、**"AUTO REC"**画面を表示します。
2. **"MODE"**項目を"MARK"に設定します。

3. **"START LEVEL"**項目でスタートレベルを設定します。
4. **"END LEVEL"**項目でエンドレベルを設定します。
5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
6. AUTOボタンを押しながらRECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。
   入力音がスタートレベルを上回ると、自動で録音を開始します。
7. 録音を停止させる場合は、STOP［■］ボタンを押してください。

メモ

手動でマークを付けることもできます。（→ 40ページ「録音中／再生中に手動でマークを付ける」）

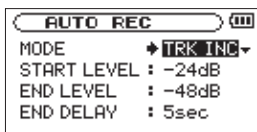
録音中に自動で一時停止させる（PAUSE）

録音中に入力音がエンドレベルを下回ったままエンドディィレイ時間を経過したとき、自動で一時停止します。

1. AUTOボタンを押して、**“AUTO REC”**画面を表示します。
2. **“MODE”**項目を“PAUSE”に設定します。

3. **“END LEVEL”**項目でエンドレベルを設定します。
4. **“END DELAY”**項目でエンドディレイ時間を設定します。
5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
6. AUTOボタンを押しながらRECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。
   入力音がスタートレベルを上回ると、自動で録音を開始します。
7. 録音を停止させる場合は、STOP［■］ボタンを押してください。

録音中に自動でファイルを更新する（TRK INC）

録音中に入力音がエンドレベルを下回り、その後スタートレベルを上回ったときに自動的にファイルを分割し、新たなファイルを作成します。

1. AUTOボタンを押して、**“AUTO REC”**画面を表示します。
2. **“MODE”**項目を“TRK INC”に設定します。

3. **“START LEVEL”**項目でスタートレベルを設定します。
4. **“END LEVEL”**項目でエンドレベルを設定します。
5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
6. AUTOボタンを押しながらRECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。
   入力音がスタートレベルを上回ると、自動で録音を開始します。
7. 録音を停止させる場合は、STOP［■］ボタンを押してください。

メモ

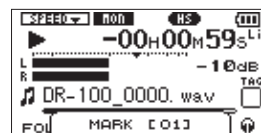
- 手動でファイルを更新することもできます。（ → 36ページ「録音中に手動でトラックインクリメントする」）
- 新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。

注意

- フォルダーとファイルの総数が999個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成させるファイルのファイル名がすでに存在する場合は、更に数字が繰り上がります。

マーク機能

録音中／再生中に手動でマークを付ける

録音中または再生中ENTER/MARKボタンを押すと、手動で任意の位置にマークを付けることができます。
このとき、マーク番号がディスプレーの下部にプルアップ表示されます。

メモ

- 録音一時停止状態から再び録音を開始するときには、常にマークが付けられます。
- マークは、ファイルごとに**“01”**～**“99”**まで設定でき、ファイルにマークの情報を記録します。
- 再生中にマークを追加した場合は、その時点ではファイルに保存されず、停止したときに保存されます。停止しないで⏮ボタンや⏭ボタンでテイクを変えた場合は、追加したマークは保存されません。
- 内蔵マイク使用時にマークを付けるとボタンを押す音が録音される場合があります。この場合は、リモートコントローラーをご使用ください。

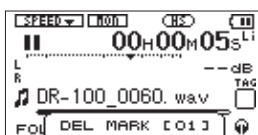
マークの位置への移動

停止中または再生中に、ENTER/MARKボタンを押しながら⏮ボタンまたは⏭ボタンを押すと、選択されているファイルに挿入されているマークの位置へ移動することができます。頭出しのためのインデックスのように使用することができます。

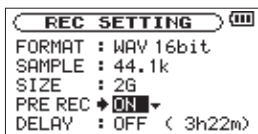
メモ

異なるファイルのマークへの移動はできません。

マークの消去

ENTER/MARKボタンを押しながらSTOP［■］ボタンを押すと、マークをクリアすることができます。
このとき、クリアしたマーク番号がディスプレーの下部にプルアップ表示されます。

録音開始の少し前から録音する（PRE REC）

録音待機中に入力される信号を最大2秒間録音しておき、録音開始時に最大2秒前からの信号を録音することができます。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ホイールを使って **"REC SETTING"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "REC SETTING" 画面が表示されます。
3. ホイールを使って **"PRE REC"** 項目を選択（反転表示）し、⏭ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。
4. ホイールを使って、**"ON"** に設定します。

ヒント

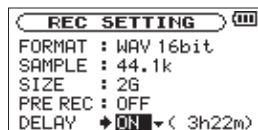
オートレック機能と組み合わせることにより、出音の部分を欠かすことなく録音できます。

メモ

- 録音待機状態になってから2秒以内に録音を開始した場合は、録音待機状態にした時点からの録音となります。
- プリレック機能を使用してのオーバーダビングはできません。オーバーダビングを行うときは、プリレック機能を **"OFF"** に設定してください。
- プリレック機能をオンにするときは、レックディレイ機能をオフにしてください。

開始を遅らせて録音する（REC DELAY）

録音開始時、RECORD［●］ボタンが押されてから約0.3秒後（時間固定）に録音が開始されます。
RECORD［●］ボタンの操作音を録音したくないときに有効です。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ホイールを使ってで **"REC SETTING"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "REC SETTING" 画面が表示されます。
3. ホイールを使って **"DELAY"** 項目を選択（反転表示）し、⏭ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。
4. ホイールを使って、**"ON"** に設定します。

メモ

レックディレイ機能をオンにするときは、プリレック機能をオフにしてください。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD ／ SDHCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット（録音時の設定）			SD ／ SDHCカード容量			
			1GB	2GB	4GB	8GB
WAV	16ビット	44.1kHz	約1時間34分	約3時間08分	約6時間17分	約12時間35分
		48kHz	約1時間26分	約2時間53分	約5時間46分	約11時間33分
		96kHz	約43分	約1時間26分	約2時間53分	約5時間46分
	24ビット	44.1kHz	約1時間02分	約2時間05分	約4時間11分	約8時間23分
		48kHz	約57分	約1時間55分	約3時間50分	約7時間42分
		96kHz	約28分	約57分	約1時間55分	約3時間51分
MP3	32kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約69時間25分	約138時間51分	約277時間11分	約554時間58分
	64kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約34時間42分	約69時間25分	約138時間35分	約277時間29分
	96kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約23時間08分	約46時間17分	約92時間23分	約184時間59分
	128kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約17時間21分	約34時間42分	約69時間17分	約138時間44分
	192kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約11時間34分	約23時間08分	約46時間11分	約92時間29分
	256kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約8時間40分	約17時間21分	約34時間38分	約69時間22分
	320kbps	44.1kHz ／ 48kHz	約6時間56分	約13時間53分	約27時間43分	約55時間29分

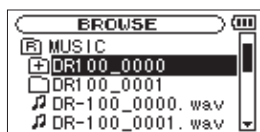
- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD ／ SDHCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD ／ SDHCカードに可能な録音合計時間です。

第5章　ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）

“BROWSE”画面では、SDカード上の**“MUSIC”**フォルダー（オーディオファイルの収納フォルダー）の内容を見ることができます。また、この画面で選択したオーディオファイルの再生や削除、フォルダーの作成やプレイリストへの登録などができます。（ → 48ページ「プレイリスト」）

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからも**“MUSIC”**フォルダー内のフォルダー構成の変更やファイルの削除ができます。さらにパソコンからはファイル名の編集が可能です。

“BROWSE”画面を表示するには、MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示し、ホイールを使って**“BROWSE”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。

この画面には、“BROWSE”画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダーの内容が表示されます。

BROWSE画面内のナビゲーション

“BROWSE”画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダーや音楽ファイルが「階層ツリー形式」で表示されます。フォルダーは、第2階層まで作成できます。

- ホイールを使って、ファイルやフォルダーを選択（反転表示）します。
- フォルダーを選択中（反転表示中）に ►►I ボタンを押すと、フォルダーの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に I◄◄ キーを押すと、現在開いているフォルダーが閉じて、上位の階層レベルが表示されます。
- フォルダーやファイルを選択中（反転表示中）にENTER/MARKボタンを押すと、ポップアップメニューが表示されます。
- ファイルを選択中（反転表示中）に ►►I ボタンを押すと、ファイルをロードしてホーム画面に戻り停止します。
  このファイルを含むフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。また、再生範囲設定が**“FOLDER”**の場合は、このフォルダーが再生範囲になります。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に**“BROWSE”**画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダー　（Ⓡ）MUSIC

ルート（ROOT）階層表示中の**“BROWSE”**画面では、最上段にMUSICフォルダーが表示されます。

オーディオファイル（ ♫ ）

音楽ファイルは（ ♫ ）のあとにファイル名が表示されます。

フォルダー（⊞）

内部にフォルダーが存在するフォルダーです。

フォルダー（□）

内部にフォルダーが存在しないフォルダーです。

表示中のフォルダー（🗀）

現在、このフォルダーの内容を画面表示しています。

ファイル操作

"BROWSE" 画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。

ホイールを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

PLAY

ホーム画面に戻り、選択したファイルを再生します。再生範囲設定が **"FOLDER"** の場合は、このファイルを含むフォルダーが再生範囲になります。

INFO

選択したファイルの情報（日付、サイズ）が表示されます。再度ENTER/MARKボタンを押すか、STOP［■］ボタンを押すと、**"BROWSE"** 画面に戻ります。

ADD LIST

プレイリストに選択したファイルを登録します。（ → 48ページ「プレイリスト」）

DELETE

選択したファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、STOP［■］ボタンを押すと削除が中止されます。

CANCEL

選択中のファイルに関する操作をキャンセルします。

フォルダー操作

"BROWSE" 画面内の希望のフォルダーを選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。

ホイールを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

SELECT

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のファイルが選択されます。直前の再生範囲設定にかかわらず、このフォルダーが再生範囲になります。また、この操作で選択（反転表示）されたフォルダーに、録音したファイルが保存されます。

CREATE

新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。

ENTER/MARKボタンを押すとフォルダーが作成され、STOP［■］ボタンを押すと作成が中止されます。

ただし、第2階層のフォルダー上で **"SELECT"** を選択（反転表示）すると、ポップアップメッセージ **"Layer too deep."** が表示され、フォルダー作成を受け付けません。

ALL DEL

選択（反転表示）したフォルダー内のファイルを一括削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、STOP［■］ボタンを押すと削除が中止されます。

メモ

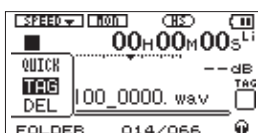
書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除されません。

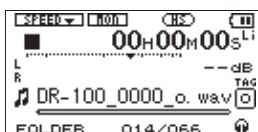
CANCEL

選択中（反転表示）のフォルダーに関する操作をキャンセルします。

ファイルに識別用タグを付ける（QUICK TAG）

ファイル名に識別用の記号を簡単に付けることができます。不要なファイルを後で削除したいときなどに便利です。

1. ホーム画面表示中にQUICKボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。

2. ホイールを使って **"TAG"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "QUICK TAG" 画面が表示されます。

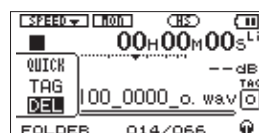
3. ホイールを使って、画面中央の反転表示記号（"o" ／ "x"）を選択し、ENTER/MARKボタンを押すと識別用タグが付き、STOP [■] ボタンを押すと中止されます。

   識別用タグを付けると、ファイル名が次のようになります。
   （例）もとのファイルがDR-100_0000.wavのとき
   DR-100_0000_o.wav
   DR-100_0000_x.wav

メモ

MP3ファイルが選択されている場合は、ID3タグ情報が優先して表示されます。その場合、QUICK TAG機能によって末尾に識別用タグが付けられたファイル名は、表示されません。ホーム画面の識別用タグ情報表示、または **"BROWSE"** 画面上で確認してください。

選択されているファイルを削除する（QUICK DEL）

選択されているファイルをすぐに削除したいときなどに便利です。

1. ホーム画面表示中にQUICKボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。

2. ホイールを使って **"DEL"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "QUICK DELETE" 画面が表示されます。

3. ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、STOP [■] ボタンを押すと中止されます。

ホーム画面上では、I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを使って再生する曲（ファイル）を選びます。このときに選択可能なファイルの範囲を「再生範囲」として設定することができます。カード上に数多くのファイルが記録されている場合など、選択範囲を限定することにより選択がやりやすくなります。

“PLAY MODE”画面で、再生範囲を全ファイル、現在のフォルダー、プレイリストの中から選択することができます。また、**“BROWSE”**画面を使って希望のフォルダーを再生範囲に設定することができます。

メモ

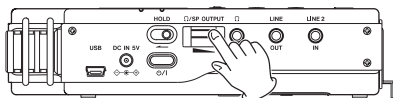
“BROWSE”画面では、再生範囲設定にかかわらず、カード上の希望のファイルを選択することができます。

モードを設定する

再生に使用する動作モードの設定します。（ → 30ページ「モードの選択」）

動作モードによって、再生可能なファイルがことなります。

再生の音量を調節する

内蔵スピーカーおよび 🎧 端子から出力される音量を、🎧 /SP OUTPUTボリュームを操作して音量を調節します。

再生範囲を設定する（AREA）

“PLAY MODE”画面で再生範囲を設定することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。

2. ホイールを使って**“PLAY MODE”**メニュー項目を選（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   “PLAY MODE”画面が表示されます。

3. ホイールを使って**“AREA”**項目を選択（反転表示）し、▶▶Iボタンまたは ENTER/MARKボタンを押します。

4. ホイールを使って、再生範囲を設定します。

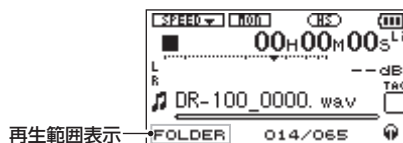
   ALL FILES：
   SDカード上のMUSICフォルダー内の全ファイルを再生することができます。

   FOLDER（初期値）：
   現在選ばれているファイルが含まれているフォルダー内のファイルを再生することができます。

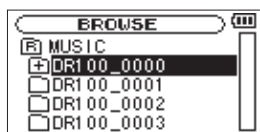
   PLAYLIST：
   プレイリストに登録されているファイルを再生することができます。（ → 48ページ「プレイリスト」）
   任意のファイルをプレイリストに登録することができます。
   プレイリストが存在しない場合は、ポップアップメッセージ**“No PLAYLIST”**を表示します。

5. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

再生範囲の現在の設定が、ホーム画面左下部に表示されます。

BROWSE画面を使って再生範囲のフォルダーを選択する（1）

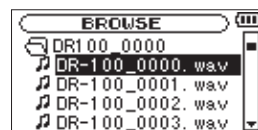
現在の再生範囲にかかわらず、**“BROWSE”**画面でフォルダーを選択すると、選択したフォルダーが再生範囲になります。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ホイールを使って**“BROWSE”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
“BROWSE”画面が表示されます。

3. ホイールを使って、再生範囲にしたいフォルダーを選択（反転表示）します。
“BROWSE”画面でのナビゲーション操作については、「BROWSE画面内のナビゲーション」（43ページ）をご覧ください。
4. ENTER/MARKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。

ホイールを使って**“SELECT”**を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
ホーム画面に戻り、フォルダー内の最初のファイルが選択されます。以前の再生範囲設定にかかわらず、このフォルダーが再生範囲になります。

BROWSE画面を使って再生範囲のフォルダーを選択する（2）

再生範囲が**“FOLDER”**のとき、**“BROWSE”**画面でファイルを選択すると、選択したファイルを含むフォルダーが再生範囲になります。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ホイールを使って**“BROWSE”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
“BROWSE”画面が表示されます。

3. ホイールを使って、再生したい曲（ファイル）が入っているフォルダーを選択（反転表示）します。
“BROWSE”画面でのナビゲーション操作については、「BROWSE画面内のナビゲーション」（43ページ）をご覧ください。
4. ►►I ボタンを押します。
5. 再生したい曲（ファイル）を選択（反転表示）します。
6. ENTER/MARKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。

ホイールを使って**“PLAY”**を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
ホーム画面に戻り、選択したファイルが再生されます。再生範囲が**“FOLDER”**に設定されていた場合は、選択したファイルを含むフォルダーが再生範囲になります。

プレイリスト

再生するファイルのリスト（プレイリスト）を作成することができます。**"PLAY MODE"**画面の**"AREA"**項目で**"PLAY LIST"**に設定すると、プレイリスト上の曲を再生することができます。
プレイリストが存在しない場合は、ポップアップメッセージ**"No PLAYLIST"**を表示します。

プレイリストに登録する

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"BROWSE"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
"BROWSE"画面が表示されます。

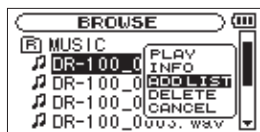
メモ

"BROWSE"画面の詳細については、「第5章 ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）」（43ページ）をご覧ください。

3. ホイールを使ってプレイリストに登録したいファイルを選択し、ENTER/MARKボタンを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

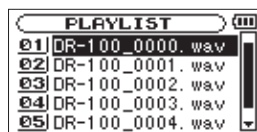
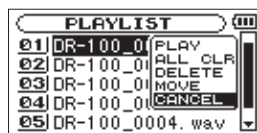
メモ

ファイルの選択方法の詳細については、「BROWSE画面内のナビゲーション」（43ページ）をご覧ください。

4. ホイールを使って、**"ADD LIST"**を選択（反転表示）します。

5. ENTER/MARKボタンを押します。
選択した曲がプレイリストに登録され、ポップアップメニューが閉じます。
6. 必要に応じて上記手順3.、4.、5.を繰り返します。リスト上では、登録順に曲番号が付けられます。
プレイリストは登録した順に並べられ、この順番で再生されます。

プレイリストを編集する

"PLAYLIST"画面には、作成したプレイリストが表示されます。また、この画面を使って、ファイルの再生やプレイリストの編集を行うことができます。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"PLAYLIST"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
"PLAYLIST"画面が表示されます。

3. ホイールを使って編集したいファイルを選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

4. ホイールを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

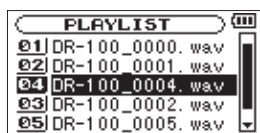
PLAY：
ファイルを再生します。ディスプレーがホーム画面に戻ります。

ALL CLR：
プレイリスト上のすべてのファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されますので、削除する場合はENTER/MARKボタンを押します。削除しない場合はSTOP [■] ボタンを押します。
この操作の場合は、手順3.でどの曲を選択してもかまいません。全ファイルがプレイリストから削除されますが、SDカードからは削除されません。

DELETE：
曲をプレイリストから削除します。プレイリストから削除されますが、SDカードからは削除されません。

MOVE：

選択している曲（ファイル）の曲順を変更します。ファイル名だけでなく、曲番数字も反転表示になります。

- ホイールを使って、プレイリスト内で選択ファイルの曲順を 移動します。

上図は、4曲目のファイルを3曲目に移動した例です。

- ENTER/MARKボタンを押します。
  移動が完了して、通常の"PLAYLIST"画面に戻ります。

CANCEL：

選択中のファイルに関する操作をキャンセルします。

再生するファイルを選択する（スキップ）

ホーム画面で、⏮ボタンまたは⏭ボタンを押して、再生したいファイルを選択します。

ファイルの途中で⏮ボタンを押すとファイルの先頭へ戻り、ファイルの先頭で⏮ボタンを押すと、一つ前のファイルの先頭にスキップします。

ファイルの先頭、または途中で⏭ボタンを押すと、次のファイルへスキップします。

メモ

- 再生できるファイルは、再生範囲内のファイルです。
- 再生中のファイル情報（曲名など）やファイル番号がディスプレー上に表示されます。
- ファイルの先頭で停止しているときは、ディスプレーに動作アイコン"■"を表示します。ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン"II"を表示します。

再生する

ホーム画面で、停止中にPLAY/PAUSE［►/II］ボタンを押すと、再生を始めます。

メモ

- 再生できるファイルは、再生範囲内のファイルです。
- "BROWSE"画面でファイル名を選択して再生させることもできます。

停止する

ホーム画面で、再生中にSTOP［■］ボタンを押すと、その位置で再生を停止します。

再度、STOP［■］ボタンを押すと、ファイルの先頭に戻ります。

一時停止する

ホーム画面で、再生中にPLAY/PAUSE［►/II］ボタンを押すと、その位置で一時停止します。

再度、PLAY/PAUSE［►/II］ボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

早戻し／早送りをする（サーチ）

ホーム画面で、停止中または再生中に⏮ボタン／⏭ボタンを押し続けると早戻し／早送りサーチ再生を行います。

メモ

サーチスピードを設定することができます。（→ 54ページ「早送り／早戻しスピードを設定」）

再生位置を移動する

ホーム画面で、停止中または再生中にホイールを使って、再生位置を移動することができます。

メモ

- ホイールを回す速さに応じて、移動量が変わります。
- ホイールを回している間、音声は出力されません。
- 再生中にホイールを回すと、ホイールを停止した位置から再生を再開します。

繰り返し再生する（REPEAT）

一つのファイルを繰り返して再生したり、指定した範囲内の複数のファイルを繰り返して再生することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ホイールを使って**“PLAY MODE”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   “PLAY MODE”画面が表示されます。
3. ホイールを使って**“REPEAT”**項目を選択（反転表示）し、►►I ボタンまたはENTER/MARKボタンを押します。

4. ホイールを使って、リピートのモードを設定します。

   OFF（初期値）:
   　通常の再生（再生範囲内の連続再生）を行うモードです。
   SINGLE :
   　1曲だけ再生するモードです。リピートは行いません。ホーム画面に“SINGLE”アイコンが表示されます。
   1 REPEAT :
   　再生中の曲をリピート再生するモードです。ホーム画面に“1”アイコンが表示されます。
   ALL REPEAT :
   　再生範囲設定で設定した範囲内の全曲をリピート再生するモードです。ホーム画面に“ALL”アイコンが表示されます。

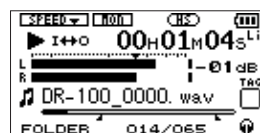
メモ

上記の**“REPEAT”**項目を**“OFF”**以外に設定しているときにループ再生を実行すると、リピート再生が自動的に**“OFF”**になります。

5. 設定が終了したら、STOP［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻り、再生を開始します。

ループ再生する

以下の手順で、ファイル内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

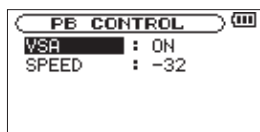
1. 再生中（または一時停止中）、ループ再生したい区間の始点で I/O LOOPボタンを押します。
   現在位置がIN点（始点）として設定されます。
2. ループ再生したい区間の終点で I/O LOOPボタンを押します。
   現在位置がOUT点（終点）として設定され、IN-OUT点間のループ再生が開始されます。
   ホーム画面の再生位置表示バーの下部には、IN点（始点）、OUT点（終点）それぞれの設定に該当する位置に“◢”、“◣”が点灯します。また、ループ再生中は“I↔O”が点灯します。

メモ

- IN-OUT点間が短すぎる場合には、**“I/O Too Short”**というポップアップメッセージが表示されます。1秒以上空けて設定し直してください。
- IN点（始点）、OUT点（終点）を設定したあとに、再度 I/O LOOPボタンを押すと、IN点（始点）およびOUT点（終点）をクリアします。
- 二つ以上のファイルをまたいでのIN点（始点）、OUT点（終点）の設定はできません。
- リピート再生設定を行うと、ループ区間の設定がクリアされます。
- 違うファイルを選択した場合は、IN点（始点）、OUT点（終点）の設定がクリアされます。
- MP3ファイルがVBR（可変ビットレート）の場合は、正確なIN点（始点）、OUT点（終点）の指定ができない場合があります。

特殊な再生（再生コントロール機能）

本機の再生コントロール機能を使って、再生スピードを変えることができるだけでなく、音程を変えずにスピードを変えることもできます。

再生コントロール機能を設定する

再生コントロール機能の設定は、**"PB CONTROL"** 画面で行います。ホーム画面表示中にPB CONTROLボタンを長押しすると、**"PB CONTROL"** 画面が表示されます。

⏮ボタン、⏭ボタン、およびホイールを使って、各項目の設定を行います。

この画面内での設定作業を終えた後、HOMEボタンを押すと（またはPB CONTROLボタンを長押しすると）ホーム画面に戻ります。

ホーム画面上部では、現在有効になっている再生コントロール機能のアイコンが反転表示になります。

キーを変えずにスピードを変える（VSA機能）

本機では、VSA機能（Variable Speed Audition）が搭載されており、再生音の音程（キー）を保ったまま再生スピードを変えることができます。

"VSA" 項目を使って、VSA機能のオン／オフ設定を切り換えます（初期値：**"ON"**）。

メモ

サンプリング周波数が96kHzで録音されたWAVファイルを選択しているときには、VSA機能は使用できません。このとき、ホーム画面上に"SPEED×"アイコンが表示されます。ただし、このときにも再生スピードの変更は行うことができます。

このファイルでは有効になりませんが、ホーム画面に戻って⏮ボタンや⏭ボタンを使うなどして44.1k/48kHzのファイルをロードしたときに、再生スピードの設定が有効になります。

スピードを変える

"SPEED" 項目を使って、再生スピードを設定することができます。ただし、スピードを設定しただけでは、スピードコントロール機能は有効ではありません。

設定後、PB CONTROLボタンを押すと、スピードコントロールがオン（有効）になります。オンにするとホーム画面上部の"SPEED▼"アイコンが反転表示します。

PB CONTROLボタンを短く押すたびにスピードコントロールのオン／オフ設定が切り換わりますので、設定したスピードとノーマルスピードを簡単に切り換えることができます。

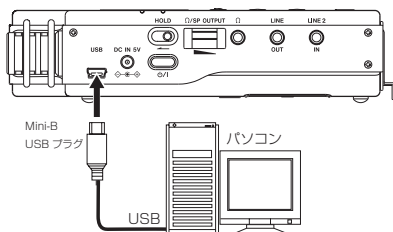
再生スピード可変範囲は、**"−50"**（0.5倍）～ **"16"**（1.16倍）です（初期値：**"−32"**）。

メモ

PB CONTROLボタンを押すことでオン／オフ設定が切り換わるのは、再生コントロール機能の中のスピード設定機能のみです。他の再生コントロール機能の場合は、**"PB CONTROL"** 画面で初期値以外の値に設定しているとき、常にオンになります。

第7章　パソコンと接続する

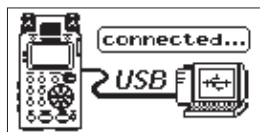
本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中の音声ファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。
本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

MP3：32k ~ 320kbps、44.1k/48kHz
WAV：44.1k/48k/96kHz（HSモード）、16/24ビット（ステレオファイルのみ）

メモ

本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。

注意

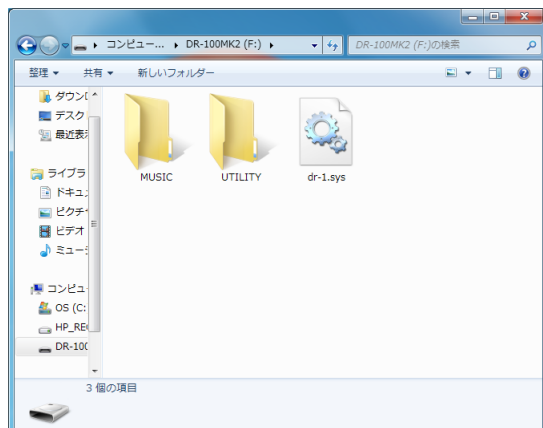
USB接続中は、本機の操作はできません。

接続すると本機のディスプレーに **"USB connected"** が表示されます。

本機にSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。
SDカードが正しく挿入されていない状態でUSB接続を行うと、ポップアップメッセージ **"Can't Save Data"** が表示されます。
パソコンのディスプレー上に、本機が《**DR-100MK2**》というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。

パソコンへファイルを取り出す

1. パソコンのディスプレー上の《**DR-100MK2**》ドライブをクリックすると、《**MUSIC**》フォルダーと《**UTILTY**》フォルダーが表示されます。
2. 《**MUSIC**》フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。

パソコンからファイルを取り込む

1. パソコンのディスプレー上の《**DR-100MK2**》ドライブをクリックすると、《**MUSIC**》フォルダーと《**UTILTY**》フォルダーが表示されます。
2. パソコンの任意の音声ファイルを《**MUSIC**》フォルダーにドラッグ&ドロップします。

ヒント

- パソコン上の操作で、《**MUSIC**》フォルダー内を管理することができます。
- 《**MUSIC**》フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、2階層まで作成できます。本機では、3階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- 本機では、フォルダー内のみを再生範囲に設定することもできますので、取り込む楽曲のカテゴリーや演奏者別に整理しておくと便利です。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上や **"BROWSE"** 画面上に表示されます。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。
電源がスタンバイ状態になります。
パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

情報を見る（INFORMATION）

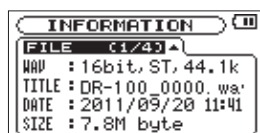
"INFORMATION"画面で、本機の各種情報を見ることができます。
以下の手順で**"INFORMATION"**画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"INFORMATION"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。

"INFORMATION"画面には、以下の4ページがあります。
ホイールを使って、これらのページを切り換えることができます。

- **ファイル情報ページ（FILE）：**
  現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示
- **カード情報ページ（CARD）：**
  挿入しているSDカードの使用状況を表示
- **システム情報ページ（SYSTEM）：**
  本機のシステム設定情報、ファームウェアバージョンを表示
- **電源情報ページ（BATTERY）：**
  セットしている各電池の使用状態を表示

ファイル情報ページ（FILE）

"FILE"ページでは、再生中のファイルの情報を表示します。

WAV ／ MP3

オーディオファイルの形式を表示します。
WAVファイルの場合は、ビット長、ステレオ／モノラル、サンプリング周波数（Hz）を表示します。
MP3ファイルの場合は、ビットレート（kbps）、CBR ／ VBR、サンプリング周波数（Hz）を表示します。（CBR：固定ビットレート、VBR：可変ビットレート）

TITLE

ファイル名を表示します。
MP3ファイルでID3TAGのタイトル情報がある場合は、その情報を表示します。

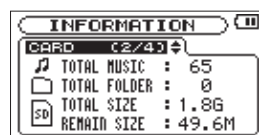
DATE

ファイルの日付を表示します。

SIZE

ファイルサイズを表示します。

カード情報ページ（CARD）

"CARD"ページでは、挿入しているSDカードの使用状況を表示します。

TOTAL MUSIC

MUSICフォルダー内にある再生可能なファイル数を表示します。

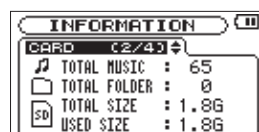
TOTAL FOLDER

MUSICフォルダー内にあるフォルダー数を表示します。

TOTAL SIZE

SDカードの総メモリー容量を表示します。

REMAIN SIZE ／ USED SIZE

SDカードの残容量／使用量を表示します。
⏮ボタンまたは⏭ボタンを押すと、表示が**"REMAIN SIZE"**と**"USED SIZE"**に交互に切り換わります。

システム情報ページ（SYSTEM）

"SYSTEM"ページでは、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。

CUE/REV SPD

早送り／早戻しのスピードを表示します。

AUTO OFF

電源のオートオフ設定を表示します。

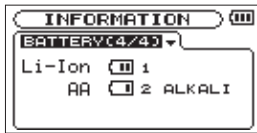
BACKLIGHT

バックライトのオートオフ設定を表示します。

System Ver.

システムファームフェアのバージョン情報を表示します。

電池情報ページ（BATTERY）

“BATTERY”ページでは、セットしている各電池の使用状況を表示します。

Li-Ion：

セットしている専用リチウムイオン充電池の電池残量を表示します。

“ ”アイコン表示の右側の表示は、主電池（**“1”**）または予備電池（**“2”**）の設定状態を表示します。

AA：

セットしている単3形電池の電池残量を表示します。

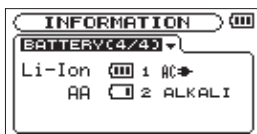
“ ”アイコン表示の右側の表示は、主電池（**“1”**）または予備電池（**“2”**）の設定状態を表示します。

“ALKALI”は、セットしている単3形電池の種類を表示します。

アルカリ乾電池　：**“ALKALI”**
ニッケル水素電池　：**“Ni-MH”**

メモ

ACアダプターもしくは外付けバッテリーボックス（TASCAM BP-6AA）使用時は、専用リチウムイオン充電池の残量ではなく、常に“ ”が表示されます。

注意

リチウムイオン充電池を主電池に設定して使用中は、状況によって単3形電池の残量が正確に表示されない場合があります。（→ 56ページ「主電池を設定する（MAIN）」）

環境設定（SETUP）

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定、および本機の初期化やSDカードのフォーマットを、**“SETUP”**画面で行います。

以下の手順で**“SETUP”**画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ホイールを使って**“SETUP”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   “SETUP”メニュー画面が表示されます。

“SETUP”画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

⏮ボタン、⏭ボタン、およびホイールを使って、各項目の設定をします。

早送り／早戻しスピードの設定

“CUE/REV SPD”項目で、⏮ボタン／⏭ボタンを押したままにしたときの早送り／早戻しのスピードを設定します。

選択肢：“X2”、**“X4”**、**“X8”**（初期値）、**“X10”**

電源のオートオフ設定

“AUTO OFF”項目で、電池駆動時、最後に動作あるいは操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定します。

選択肢：“OFF”（初期値、自動オフしない）、**“3min”**、**“5min”**、**“10min”**、**“30min”**、

バックライトのオートオフ設定

“BACKLIGHT”項目で、電池駆動時、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

選択肢：“OFF”（常時消灯）、**“5sec”**（初期値）、**“10sec”**、**“15sec”**、**“30sec”**、**“ALWAYS”**（常時点灯）

ディスプレーのコントラスト調節

“CONTRAST”項目で、ディスプレーのコントラストを調節します。

選択肢：“1”～**“20”**（初期値：**“6”**）

バックライトの輝度調節

“DIMMER”項目で、バックライトの輝度を調節することができます。

選択肢：“HIGH”（初期値）、**“LOW”**

初期設定に戻す

“INITIALIZE”項目でイニシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期設定状態に戻すことができます。

1. ホイールを使って**“INITIALIZE”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、**“Exec”**が反転表示します。

2. ENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

3. ENTER/MARKボタンを押して、イニシャライズを実行します。イニシャライズしない場合は、STOP［■］ボタンを押します。

クイックフォーマットする

“QUICK FORMAT”項目で、SDカードをクイックフォーマットします。クイックフォーマットを行うと、カード上のすべての音楽ファイルが消去され、《MUSIC》フォルダー、《UTILTY》フォルダーおよび《dr-1.sys》が自動生成されます。

1. ホイールを使って**“QUICK FORMAT”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、**“Exec”**が反転表示します。

2. ENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

3. ENTER/MARKボタンを押して、クイックフォーマットを実行します。クイックフォーマットしない場合は、STOP［■］ボタンを押します。

フルフォーマットする

“FULL FORMAT”項目で、SDカードをフルフォーマットします。フルフォーマットを行うと、カード上のすべての音楽ファイルが消去され、《MUSIC》フォルダー、《UTILTY》フォルダーおよび《dr-1.sys》が自動生成されます。
フルフォーマットでは、メモリーのエラーをチェックしながらフォーマットを実行します。クイックフォーマットと比べて多くの時間がかかります。

1. ホイールを使って**“FULL FORMAT”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、**“Exec”**が反転表示します。

2. ENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

3. ENTER/MARKボタンを押して、フルフォーマットを実行します。フルフォーマットしない場合は、STOP［■］ボタンを押します。

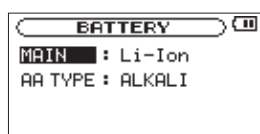
注意

フォーマットの実行は、別売のACアダプター（TASCAM PS-P520）を使用するか、電池の残量が十分な状態で行ってください。フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができません。

主電池を設定する（MAIN）

専用リチウムイオン充電池と単3形電池を両方挿入した場合は、一方を主電池、もう一方を予備電池とし、通常、主電池を使用します。
主電池が規定の残量を下回ったとき、自動的に予備電池に切り換わり、動作を継続させることができます。
ホーム画面上には、現在動作中の電池の種類と残量が表示されています。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"BATTERY"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "BATTERY"画面が表示されます。

BATTERY
MAIN : Li-Ion
AA TYPE : ALKALI

3. **"MAIN"**項目で、主電池とする電池を設定します。
   選択肢："Li-Ion"（リチウムイオン充電池、初期値）、
   "AA"（単3形電池）

注意

- 予備電池も規定の残量を下回っている場合は、電源が切れます。この場合は、録音データや設定などはすべて失われます。
- 予備電池から主電池には自動的に切り換わりません。予備電池で動作中に主電池を交換したときは、主電池を再設定してください。

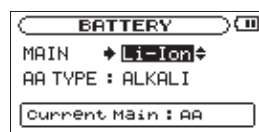
電源を切らずに電池を交換する

専用リチウムイオン充電池と単3形電池を両方挿入している場合は、録音中など動作を継続させたまま電池を交換することができます。

主電池を交換する

主電池を交換する場合は、主電池が規定の残量を下回り、予備電池に切り換わって動作していることを確認してから行ってください。
主電池で動作中に主電池を取り除くと電源が切れます。やむを得ず動作中の主電池を交換しなければならない場合は、一旦必ず予備電池の方を主電池に切り換え、動作中の電池が切り換わったことをホーム画面で確認してから行ってください。交換後は、電池が正しく挿入されたことを確認してから主電池の設定を戻してください。

注意

予備電池が規定の残量を下回っている場合は、ポップアップメッセージ**"Current Mani : AA"**が表示され、主電池の設定を変更しても動作中の電池は切り換わりません。

予備電池を交換する

主電池で動作中は、いつでも予備電池を交換することができますが、ホーム画面で主電池の残量が十分残っていることを確認してから行ってください。
予備電池で動作中に予備電池取り除くと電源が切れます。

電池の種類を設定する（AA BATTERY）

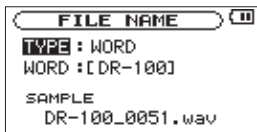
使用する電池の種類を設定します。
この設定は、単3形電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別を行います。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"BATTERY"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "BATTERY"画面が表示されます。
3. **"AA TYPE"**項目で、使用する単3形電池の種類を設定します。
   選択肢："ALKALI"（アルカリ乾電池、初期値）、
   "Ni-MH"（ニッケル水素電池）

ファイル名の形式を設定する

本機で録音するファイルの名前の形式を設定することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ホイールを使って**“FILE NAME”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   “FILE NAME”画面が表示されます。

   ```
   FILE NAME
   TYPE : WORD
   WORD :[DR-100]
   SAMPLE
     DR-100_0051.wav
   ```

   ⏮ボタン、⏭ボタン、およびホイールを使って、各項目の設定をします。
   この画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

ファイル名の形式

“TYPE”項目で、**“WORD”**か**“DATE”**かを設定します。

選択肢：“WORD”（初期値）、**“DATE”**

WORD：**“WORD”**で設定した6文字をファイル名に付けます。
（例）DR-100_0000.wav

DATE：日時をファイル名に付けます。
（例）110912_0000.wav

メモ

日時は、本体内の時計をもとに設定されます。（ → 26ページ「日時を設定する」）

文字（WORD）の設定

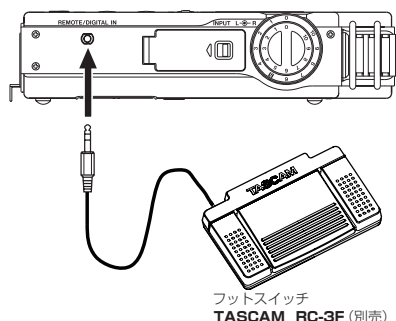
“WORD”項目で、⏮ボタンまたは⏭ボタンでカーソルを移動し、ホイールを使って文字を設定します。
文字は、英数の他に、記号「！# ＄ % &’( ) ＋ , - . ; ＝ @ [] ^ _ ` { } ˜ 」が使用可能です。

第9章　REMOTE/DIGITAL IN端子を使う

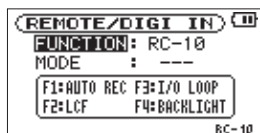
本機には、REMOTE/DIGITAL IN端子が用意されています。付属の専用ワイヤレス／ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）または別売の専用のフットスイッチ型リモートコントローラー（TASCAM RC-3F）を接続して、本機を操作することができます。

また、付属のデジタル入力変換ケーブルを使うことによって、外部デジタルオーディオ機器を接続することができます。

フットスイッチを使う（TASCAM RC-3F、別売）

フットスイッチ
TASCAM　RC-3F（別売）

フットスイッチを設定する

"REMOTE/DIGI IN" 設定画面で、フットスイッチの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ホイールを使って **"REMOTE/DIGI IN"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "REMOTE/DIGI IN" 設定画面を表示します。

3. ホイールを使って **"FUNCTION"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ⏭ ボタンを押します。
4. **"FUNCTION"** 項目をホイールを使って **"RC-3F"** を選択します（初期値：**"RC-10"**）。

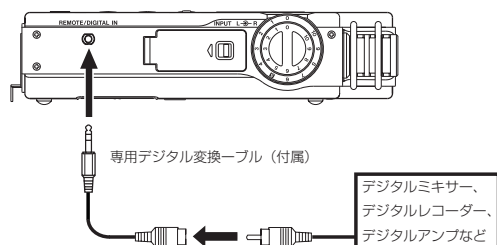
5. ⏮ ボタンとホイールを使って **"MODE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ⏭ ボタンを押します。
6. **"MODE"** 項目をホイールを使って変更します。
   選択肢："PLAY"**（初期値）、**"RECORD1"**、**"RECORD2"**、**"MINUTES"**
7. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

フットスイッチを使う

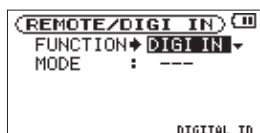
フットスイッチの各ペダルを踏むと、**"REMOTE/DIGI IN"** 画面で割り当てられた動作を行います。

各モードの詳細

MODE	フットスイッチ		
	L	C	R
PLAY	REW	PLAY/STOP	FWD
RECORD1	STOP	REC/PAUSE	INC
RECORD2	STOP	REC/PAUSE	MARK
MINUTES	REW	PLAY/STOP	SPEED CHANGE

デジタル入力する

デジタル入力を設定する

"REMOTE/DIGI IN"設定画面で、デジタル入力の設定を行います。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ホイールを使って**"REMOTE/DIGI IN"**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "REMOTE/DIGI IN"設定画面を表示します。

3. ホイールを使って**"FUNCTION"**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押します。
4. **"FUNCTION"**項目をホイールを使って**"DIGI IN"**を選択します（初期値：**"RC-10"**）。
5. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

"REMOTE/DIGI IN"設定画面の**"FUNCTION"**項目が**"DIGI IN"**に設定した場合は、トップパネルのINPUTスイッチを切り換えても、ポップアップメッセージを表示し、入力を切り換えることができません。

第10章　メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-100MKIIでは、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
File Name ERR	DIVIDEによりファイル名の文字数が200文字を超えました。DIVIDEを行うとファイル名の末尾に「_a」または「_b」が追加されます。DIVIDEを行う前にパソコンと接続し、198文字以下のファイル名に変更してください。
Dup File Name	DIVIDEにより作成されるファイルと同じファイル名のファイルが同じフォルダー内に既に存在します。DIVIDEを行うとファイル名の末尾に「_a」または「_b」が追加されます。DIVIDEを行う前にパソコンと接続し、ファイル名を変更してください。
File Not Found	プレイリストに登録されているファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。対象のファイルを確認してください。
Non-Supported	ファイル形式がサポート対象外です。取り扱い可能なファイル形式については「第7章 パソコンと接続する」の章を参照してください。
Battery Empty	電池の残量がありません。専用リチウムイオン充電池でご使用の場合は充電し、単3形電池でご使用の場合は電池を交換してください。
I/O Too Short	IN点（始点）とOUT点（終点）の間隔が短すぎます。1秒以上空けて設定してください。
File Not Found PLAYLIST	プレイリストに登録されているファイルが見つかりません。MUSICフォルダー内に対象のファイルがあるか確認してください。
No PLAYLIST	プレイリストにファイルが登録されていません。プレイリストにファイルを登録するか、プレイモードを「PLAYLIST」以外に設定してください。
PLAYLIST Full	プレイリストが一杯です。プレイリストには、最大99ファイルまで登録可能です。
MBR Error Init CARD	カードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、FATフォーマットが実行されます。 **FATフォーマットが実行されるとカード内のデータは、すべて消去されます。**
Format Error Format CARD	カードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでFATフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。 フォーマットは、必ずDR-100MKII本体で行ってください。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、FATフォーマットが実行されます。 **FATフォーマットが実行されるとカード内のデータは、すべて消去されます。**
File Not Found Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すとシステムファイルが作られます。
Invalid SysFile Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常でありません。このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
Invalid Card Change Card	カードが正常でない可能性があります。カードを交換してください。
Protected Card Change Card	MUSICフォルダーなど所定のフォルダー、ファイルがない状態でカードが書き込み禁止になっています。書き込み禁止スイッチを解除し、電源を入れ直すか、フォーマットしてください。
Write Timeout	カードへの書き込みが間に合いませんでした。 ファイルをパソコンへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
Card Full	カードの残容量がありません。不要なファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
Layer too Deep	フォルダーは、2階層までです。このフォルダー内に新たなフォルダーを作成することはできません。
Can't Divide	DIVIDE実行時に分割位置が適切でありません。（ファイルの先頭、ファイルの最後）
Max File Size	ファイルのサイズが指定のサイズを超えました。あるいは録音時間が24時間を超えました。
File Full	フォルダーとファイルの総数が制限値（999個）を超えました。不要なフォルダーやファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
Card Error	カードを正常に認識できません。カードを交換してください。
Current File MP3	MP3ファイルの分割はできません。
File Protected	読み取り専用ファイルのため、削除できません。

メッセージ	内容と対処方法
No Card	カードが無いため、録音できません。
No PB File	再生可能なファイルがありません。ファイルが壊れている可能性があります。
No MUSIC File	再生ファイルが無いため、DIVIDE、OVERDUBは、実行できません。
Sample Rate 96kHz	96kHzのWAVファイルへのオーバーダビングすることはできません。
DIN Selected	REMOTE/DIGITAL IN端子からの入力を選択しているときに、トップパネルのINPUTスイッチを切り換えてもアナログ入力の切り換えはできません。
DIN　Unlock	REMOTE/DIGITAL IN端子からの入力を選択しているとき、デジタル入力の接続が切れたか、サンプリング周波数が合っていません。REMOTE/DIGITAL IN端子に、外部デジタルオーディオ機器が正しく接続されていることを確認してください。また、本機と外部デジタルオーディオ機器のサンプリング周波数が合っていることを確認してください。 このメッセージは、STOP [■] ボタンを押すことで消すことができます。このとき、REMOTE/DIGITAL IN端子からの入力を使用することはできませんが、録音は可能です。 録音中にこのメッセージが出た場合は、ノイズが録音される可能性があります。
Not Continued	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 電源を切ることができない場合は、電池や別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）や外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を取り外してください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談ください。
File Error	
Can't Save Data	
Player Error	
Device Error	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
Remote Cmd	
Remote Rx	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

第11章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

● 電源が入らない。

↓

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 電池の⊕、⊖を間違ってセットしていませんか？
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）の電源プラグがしっかりと差し込まれていますか?
- 専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2）は装着されていますか？

● リチウムイオン充電池をフル充電できない。

↓

- 本機の温度があたたかくなっていませんか？
  温度の高い場所で長時間使用すると本体内の温度が上がり、リチウムイオン充電池の保護回路が動作して充電が停止されます。充電動作ができる温度で充電してください。(室温30℃以下)

● リモコンから操作できない。

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか?

● 本体で操作できない。

↓

- **HOLD**スイッチが矢印方向にセットされていませか？
- USB接続（USB Connected）になっていませんか？

● SDカードを認識しない。

↓

- SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

● 再生できない。

↓

- 動作モードをもう一度確認してください。
- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。
- MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートもしくはサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。

● スピーカーから音が出ない。

↓

- ヘッドホンをつないでいませんか？
- **SPEAKER**スイッチが**OFF**になっていませんか？
- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の出力レベル設定が最小になっていませんか？
- 入力音をモニタするための設定で **"INPUT SETTING"** での **"MONITOR"** 項目が **"ON"** になっていませんか？

● 録音できない。

↓

- 動作モードをもう一度確認してください。
- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- アナログ入力レベルが低くなっていませんか？
- SDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数が最大数（フォルダーとファイルの総数999個）に達していませんか？

● アナログ入力レベルが低い。

↓

- アナログ入力レベル設定が低くなっていませんか？
- 接続した外部機器の出力レベルが低くなっていませんか？

● アナログ入力レベルが低い。録音しようとする音が歪んで聴こえる

↓

- アナログ入力レベル（**INPUT LEVEL**）の設定が大きすぎませんか？

● 再生音が不自然に聴こえる。

↓

- 再生の音程を変えていませんか?
- 再生のスピードを変えていませんか?

● ファイルが消去できない。

↓

- SDカードにライトプロテクトがかかっていませんか？
- パソコンで読み取り専用に設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

● パソコン上に本機のファイルが表示されない。

↓

- 本機が**USB**端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

定格

記録メディア
SDカード（64MB ～ 2GB）
SDHCカード（4GB ～ 32GB）

録音再生フォーマット
WAV：44.1k/48k/96kHz（HSモード時）、16/24ビット
MP3：44.1k/48k/32k/64k/96k/128k/192k/
256k/ 320kbps

チャンネル数
2チャンネル（ステレオ）

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

XLR（MIC/LINE 1）IN 端子（ファントム電源対応）
コネクター：
XLR-3-31（1：GND、2：HOT、3：COLD）

MIC ／ LINE 1スイッチMIC時
入力インピーダンス：2.1kΩ

- **GAIN HIGH時**
  基準入力レベル：－70dBu
  最大入力レベル：－54dBu
- **GAIN MID時**
  基準入力レベル：－42dBu
  最大入力レベル：－26dBu
- **GAIN LOW時**
  基準入力レベル：－14dBu
  最大入力レベル：+2dBu

MIC ／ LINE 1スイッチLINE 1時
入力インピーダンス：2.5kΩ
基準入力レベル：+4dBu
最大入力レベル：+24dBu

LINE 2 IN 端子
コネクター：1/8”（3.5mm）ステレオミニジャック
入力インピーダンス：22kΩ以上
基準入力レベル：－10dBV
最大入力レベル：+6dBV

LINE OUT 端子
コネクター：1/8”（3.5mm）ステレオミニジャック
出力インピーダンス：200Ω

XLR LINE 1 IN時
基準出力レベル：－14dBV
最大出力レベル：+6dBV

その他
基準出力レベル：－10dBV
最大出力レベル：+6dBV

端子（ヘッドホン）
コネクター：1/8”（3.5mm）ステレオミニジャック
最大出力：25mW+25mW
（ヘッドホン接続時、32Ω負荷時）

内蔵スピーカー
0.4W（モノラル）

デジタルオーディオ入力定格

DIGITAL IN端子
コネクター　：2.5mmTRSジャック
（専用変換ケーブル使用）
フォーマット　：IEC60958-3（S/PDIF）

コントロール入出力定格

USB端子
コネクター：Mini-B タイプ
フォーマット：USB2.0 HIGH SPEED
マスストレージクラス

REMOTE端子
コネクター：2.5mmTRSジャック

オーディオ性能

周波数特性
20-20kHz ＋1/－3dB
（EXT IN to LINEOUT、Fs44.1kHz、JEITA）
20-22kHz ＋1/－3dB
（EXT IN to LINEOUT、Fs48kHz、JEITA）
20-40kHz ＋1/－3dB
（EXT IN to LINEOUT、Fs96kHz、JEITA）

歪率
0.01%以下
（XLR LINE 1 IN to LINE OUT、Fs44.1kHz、+24dBu入力、JEITA）

S/N比
92dB以上
（XLR LINE 1 IN to LINE OUT、Fs44.1kHz、+24dBu入力、JEITA）

注）JEITA：JEITA CP-2150準拠

動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）ご確認ください。

Windows マシン

Pentium 300MHz 以上
128MB 以上のMemory
USBポート（USB2.0）

Macintosh マシン

Power PC、iMac、G3、G4 266MHz以上
64MB以上のMemory
USBポート（推奨：USB2.0）

推奨USBホストコントローラー

Intel製チップセット

サポートOS

Windows：Windows XP、Windows Vista、Windows 7
Macintosh：Mac OS X 10.2以上

一般

電源

専用リチウムイオン充電池（TASCAM BP-L2）
単3形電池2本（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）
専用ACアダプター（TASCAM PS-P520、別売）
専用外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA、別売）

消費電力

4W（最大時）

電池持続時間（連続動作時）

● 専用リチウムイオン充電池（BP-L2）使用時

フォーマット	持続時間	備考
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約5時間	ヘッドホン（32Ω）使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約5時間	内蔵スピーカー使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約5時間	ヘッドホン（32Ω）使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約5時間	内蔵スピーカー使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約5時間	内蔵ステレオマイク入力時（UNI ／ OMNI）
MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約5時間	内蔵ステレオマイク入力時（UNI ／ OMNI）

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

● ニッケル水素電池（eneloop）使用時

フォーマット	持続時間	備考
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約4時間	ヘッドホン（32Ω）使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約4時間	内蔵スピーカー使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約4時間	ヘッドホン（32Ω）使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約4時間	内蔵スピーカー使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約4時間	内蔵ステレオマイク入力時（UNI ／ OMNI）
MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約4時間	内蔵ステレオマイク入力時（UNI ／ OMNI）

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

● アルカリ乾電池（EVOLTA）使用時

フォーマット	持続時間	備考
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約2時間45分	ヘッドホン（32Ω）使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約2時間45分	内蔵スピーカー使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約2時間45分	ヘッドホン（32Ω）使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約2時間45分	内蔵スピーカー使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約2時間45分	内蔵ステレオマイク入力時（UNI ／ OMNI）
MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約2時間45分	内蔵ステレオマイク入力時（UNI ／ OMNI）

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

外形寸法

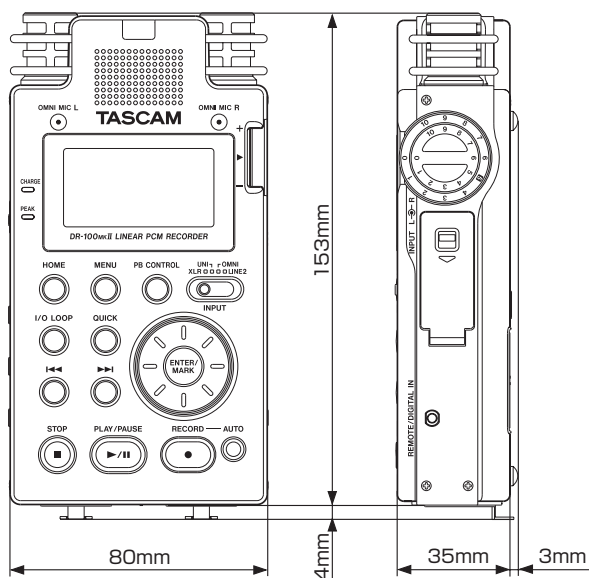
80 x 153 x 35mm（幅 x 高さ x 奥行き、突起部含まず）

質量

290kg（電池を含まず）

動作温度

0 ～ 40℃
0 ～ 30℃（リチウムイオン充電池を充電時）

寸法図

＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 ／ 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒 206-8530　東京都多摩市落合 1-47

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒 358-0026　埼玉県入間市小谷田 858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ユーザー登録に関して

TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）にて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

ティアック株式会社
〒 206-8530　東京都多摩市落合 1-47
http://tascam.jp/

Printed in China